

下地の確認

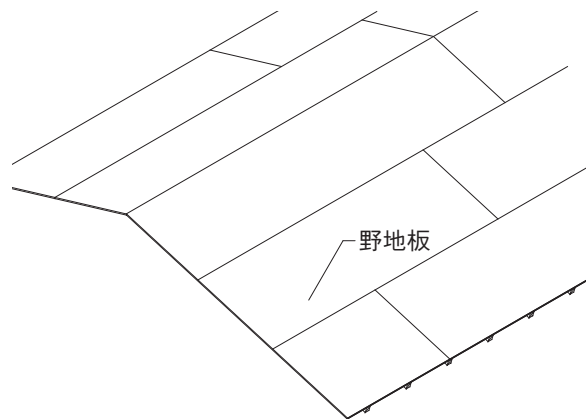
○下地造りの確認

○たる木

45×60mm以上、間隔455mm以下

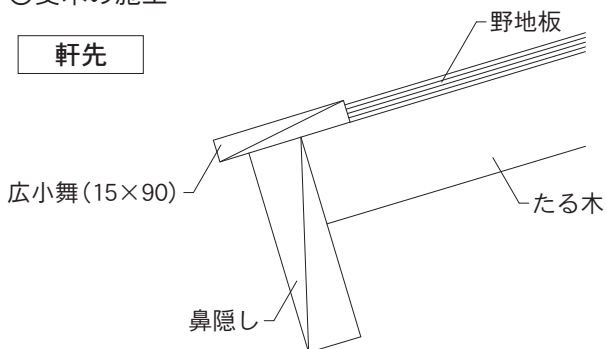
○野地板

構造用合板 特類2級 (厚さ12mm) など
注意：小幅板は使用しないでください。

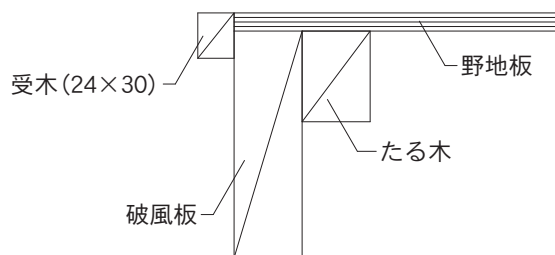


○受木の施工

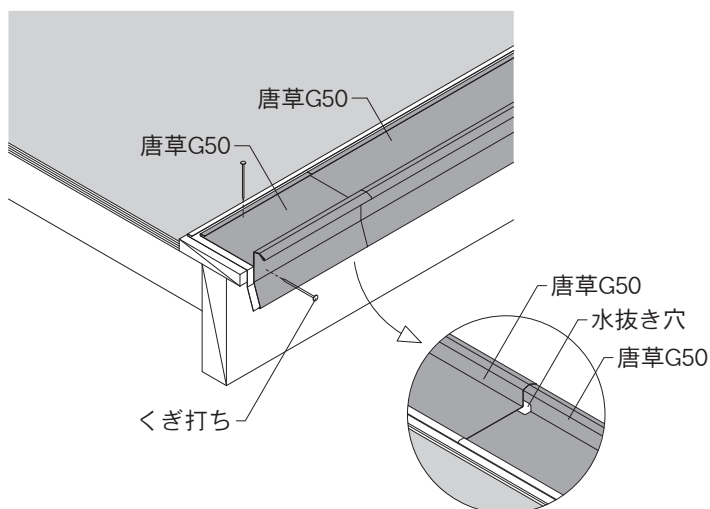
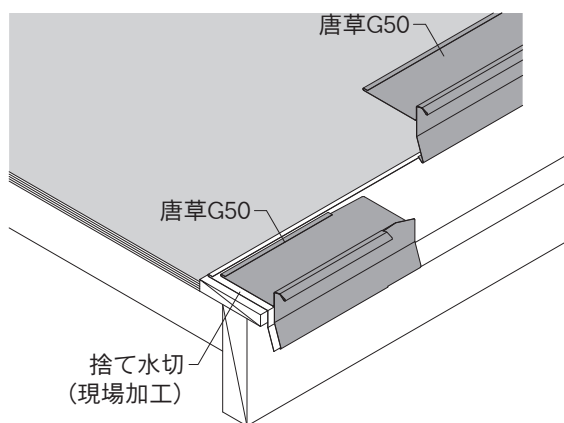
軒先



ケラバ



○唐草G50の取り付け



○捨て水切（現場加工）を施工し、唐草G50をくぎ打ちしてください。

○唐草G50を施工する前に、墨出しを行ってください。

○唐草G50は、墨出しに合わせて施工してください。本体の仕上がりに影響します。唐草G50同士をつなぐため、切り欠き加工が施されています。

下地の確認

○下葺き材の施工

下葺き材は、全面に施工してください。勾配によって使用する下葺き材が異なりますので、施工前に勾配と下葺き材の種類を確認してください。

勾配	2.5 寸～3.5 寸未満	3.5 寸勾配以上
流れ長さ	7m 以下	20m 以下
下葺き材	片面粘着層付き改質アスファルトルーフィング	改質アスファルトルーフィング
ジョイント下地	ジョイント下地を施工	不要

一般

○流れ方向100mm以上、水平方向200mm以上重ねてください。

軒先

○唐草G50と下葺き材は、防水テープで密着してください。水抜き穴を下葺き材で、ふさがないように注意してください。
※片面粘着層付き改質アスファルトルーフィングの場合は、無し。

谷

①谷の中心に合わせ、下葺き材を施工してください。
②下葺き材は、片側250mm以上ずつ重ねてください。

棟

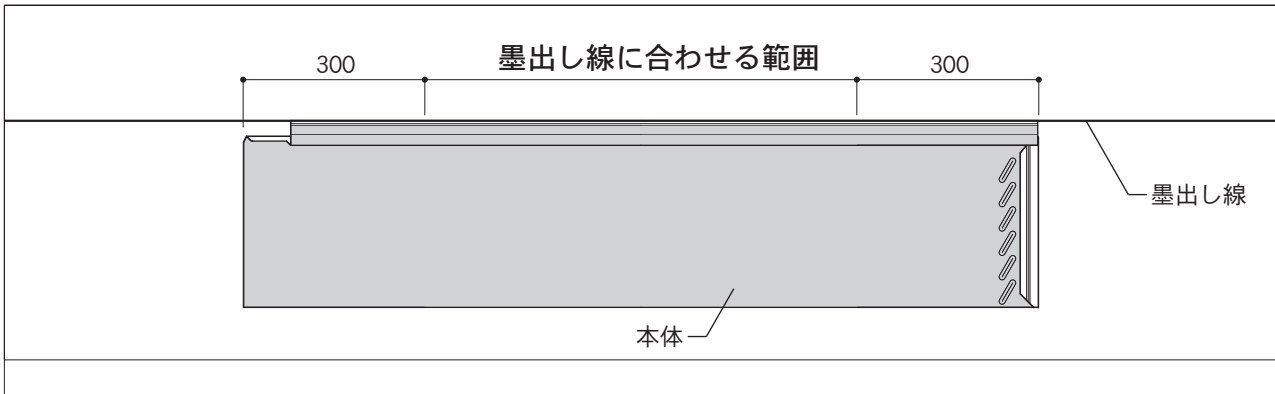
①下葺き材は、片側250mm以上重ねて施工してください。
②下葺き材は、棟の頂点に合わせ増し張りを行ってください。

壁との取り合い

○下葺き材は、250mm以上立ち上げて施工してください。

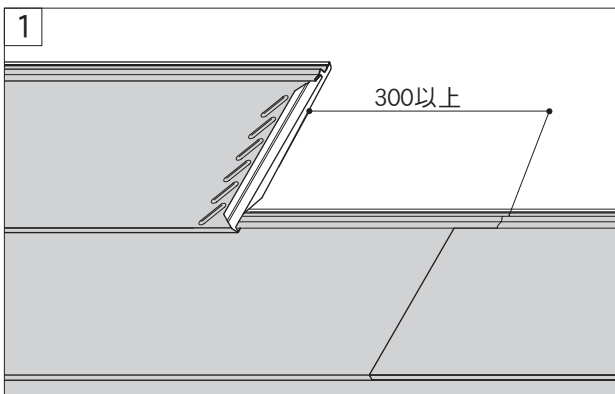
本体の施工とポイント

墨出し線への合わせ方

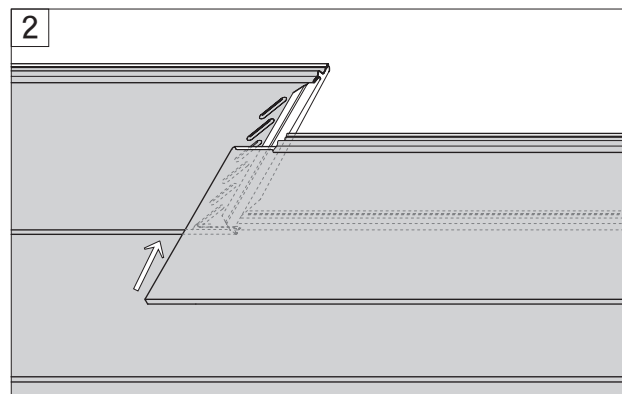


- 本体を施工する前に、唐草G50が墨出し線に合わせて施工されている事を確認してください。
- 本体は、左右両端の300mm程度を除いた範囲を墨出し線に合わせて施工してください。

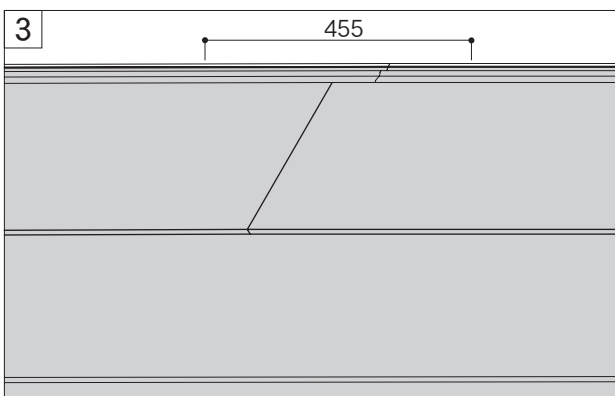
本体の施工



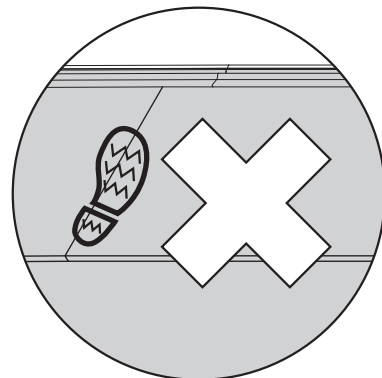
- 施工は必ず左から右へ行ってください。
- 横継ぎは必ず横ジョイント部で行ってください。
- 本体の横ジョイント部は上下で重ならないように300mm以上離して割り付けてください。



- 横ジョイントは、上図のようにはめ込んでください。
- 横ジョイントでは、表面鋼板の重なり代を確保するために、左右で数mm程度の段差が発生します。



- 本体は、455mm間隔以下でたる木に留め付けてください。

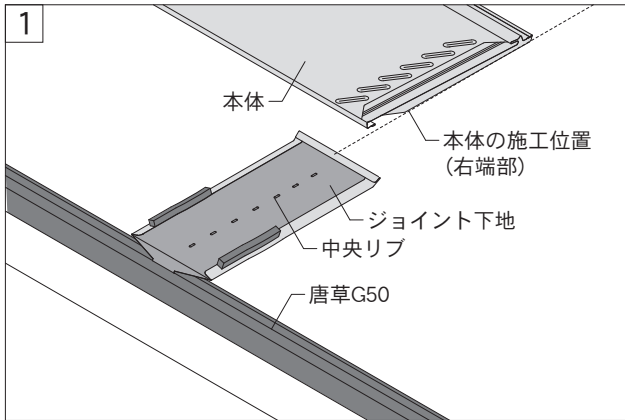


注意

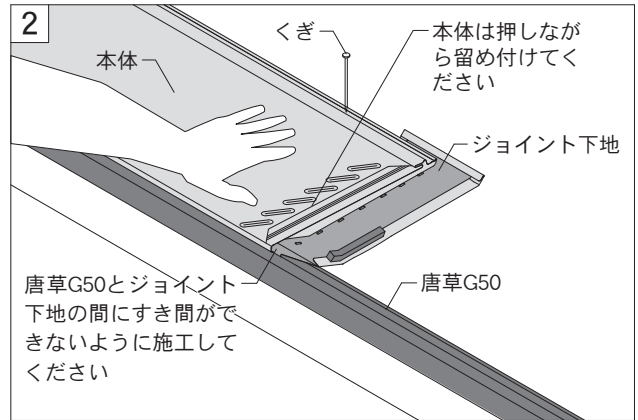
横ジョイント部は、変形のおそれがありますので、上に乗ったり重量物を置いたりしないでください。

ジョイント下地の施工

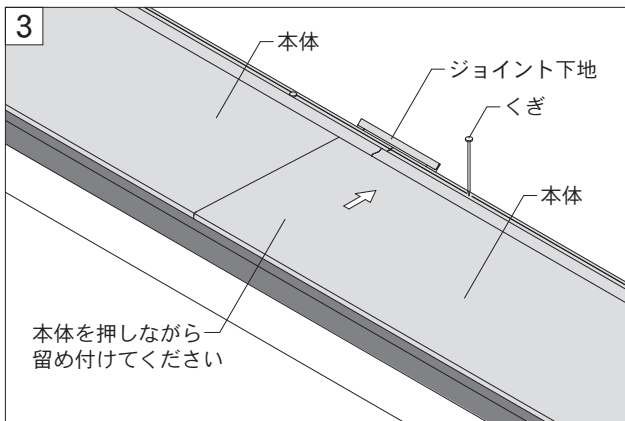
3.5寸未満の勾配の屋根では、本体の横ジョイント部全てにジョイント下地を施工してください。ジョイント下地は、くぎなどで穴をあけないでください。墨出し線への合わせ方や注意などは、P13を参照してください。



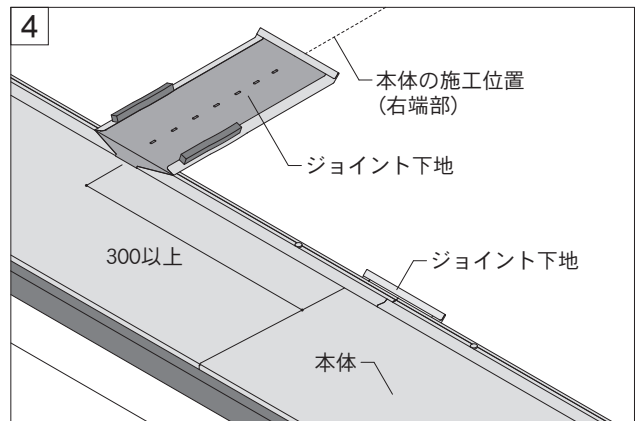
○最初に本体の施工位置を決め、本体の右端部にジョイント下地の中央リブを合わせて、ジョイント下地を配置します。ジョイント下地は、本体を施工する前に曲げないでください。



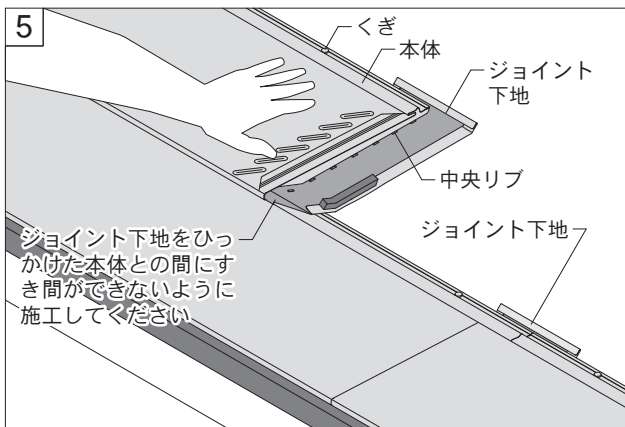
○手で本体を押しながら留め付けてください。



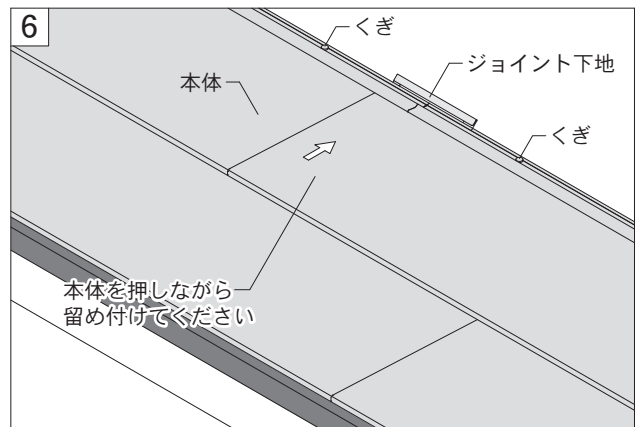
○次の本体も手で押しながら留め付けてください。



○施工順序は、二段目以降も一段目と同じです。本体の横ジョイント部は上下で重ならないように、300 mm以上離して割り付けてください。ジョイント下地は、本体を施工する前に曲げないでください。



○一段目と同様に、本体をジョイント下地の中央リブに合わせて配置し、手で本体を押しながら本体を留め付けてください。



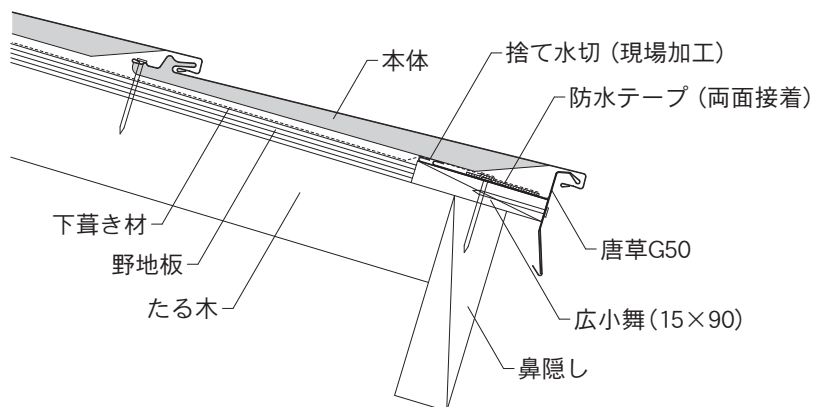
○③と同様に、次の本体も手で押しながら留め付けてください。

事故防止のため
取り扱いのお願い
アイジールーフを美しく保つために
アイジールーフ適用地域一覧
施工に必要な工具と材料
本体規格
部材規格
認定関係
施工の手順
下地の確認
本体の施工とポイント
各部の納まり
積算方法

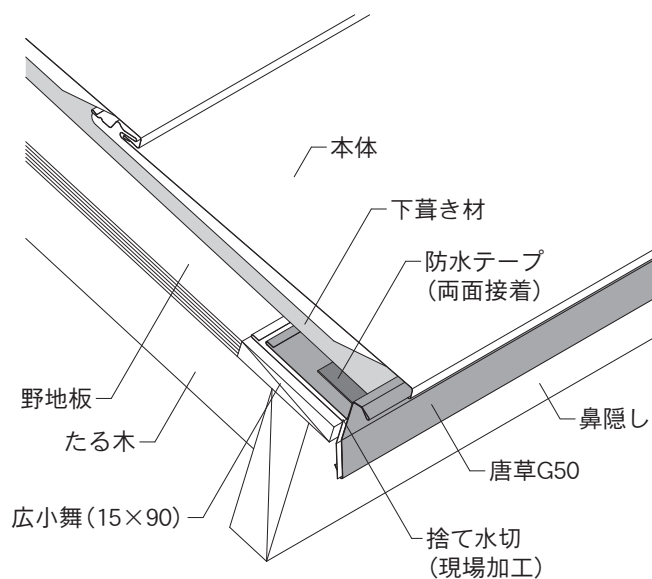
各部の納まり

○軒先の納まり 〈唐草G50〉

納まり図



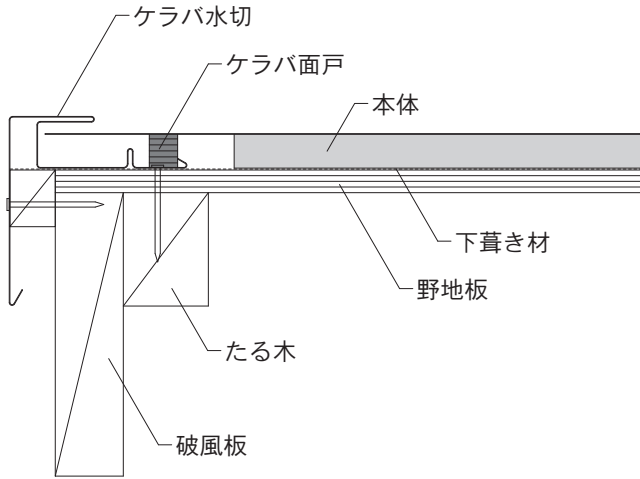
施工手順



- 捨て水切（現場加工）を施工してから唐草G50を施工してください。
- 唐草G50は、墨出しを行い、それに合わせて施工してください。本体の仕上がりに影響します。
- 本体を唐草G50に引っ掛けて取り付け、くぎ打ちしてください。本体の施工方法は、P13を参照してください。

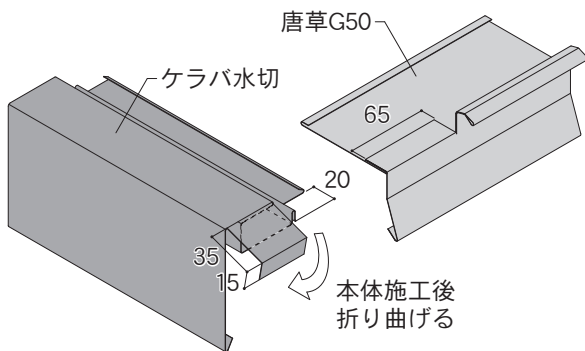
○ケラバの納まり① 〈ケラバ水切・ケラバ面戸〉

納まり図

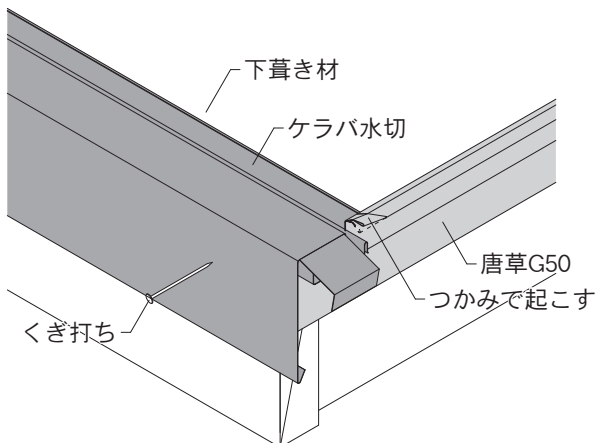


○ケラバ水切を施工する際は、ケラバ面戸を使用してください。

施工手順 1



- 唐草G50とケラバ水切の取り合いは、図のように加工して取り付けてください。
- ケラバ水切の軒先は、本体施工後折り曲げてください。
- ケラバ水切同士をつなぐ場合は、P20を参照してください。



- 唐草G50→下葺き材→ケラバ水切の順序で施工してください。
- 唐草G50の端部を左図のようにつかみで起こしてください。

事故防止のため

取り扱い時のお願い

アイジールーフを美しく保つために

アイジールーフ適用地域一覧

施工に必要な工具と材料

本体規格

部材規格

認定関係

施工の手順

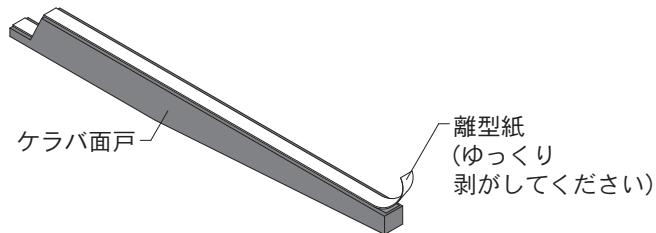
下地の確認

本体の施工とポイント

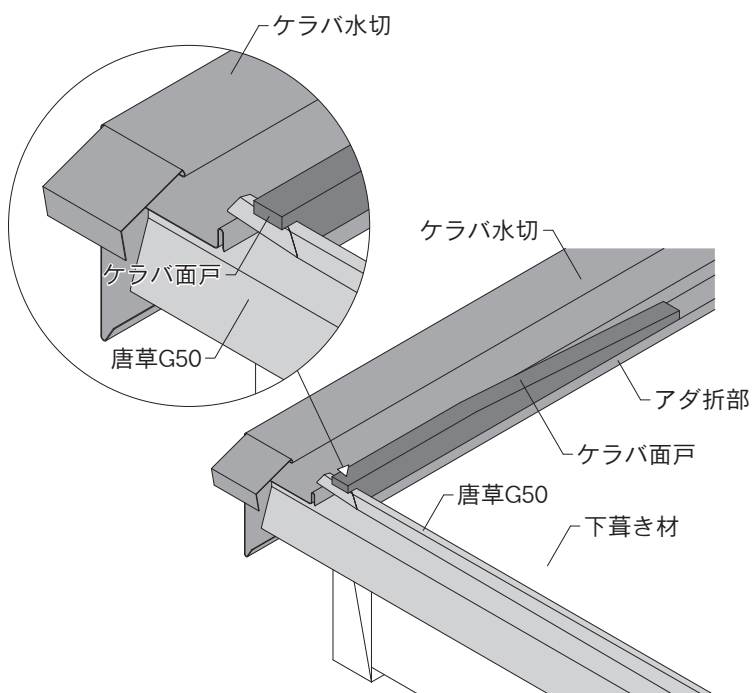
各部の納まり

積算方法

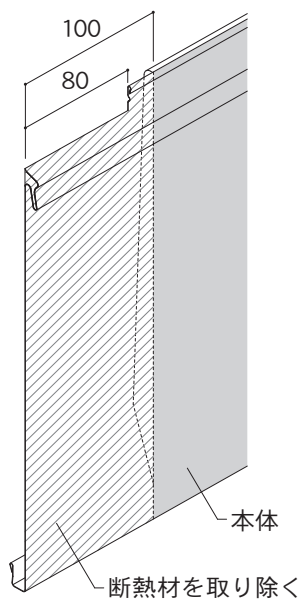
各部の納まり



- セラバ水切を施工する際は、セラバ面戸を使用してください。
- セラバ面戸は、離型紙が出ている側からゆっくり剥がして使用してください。

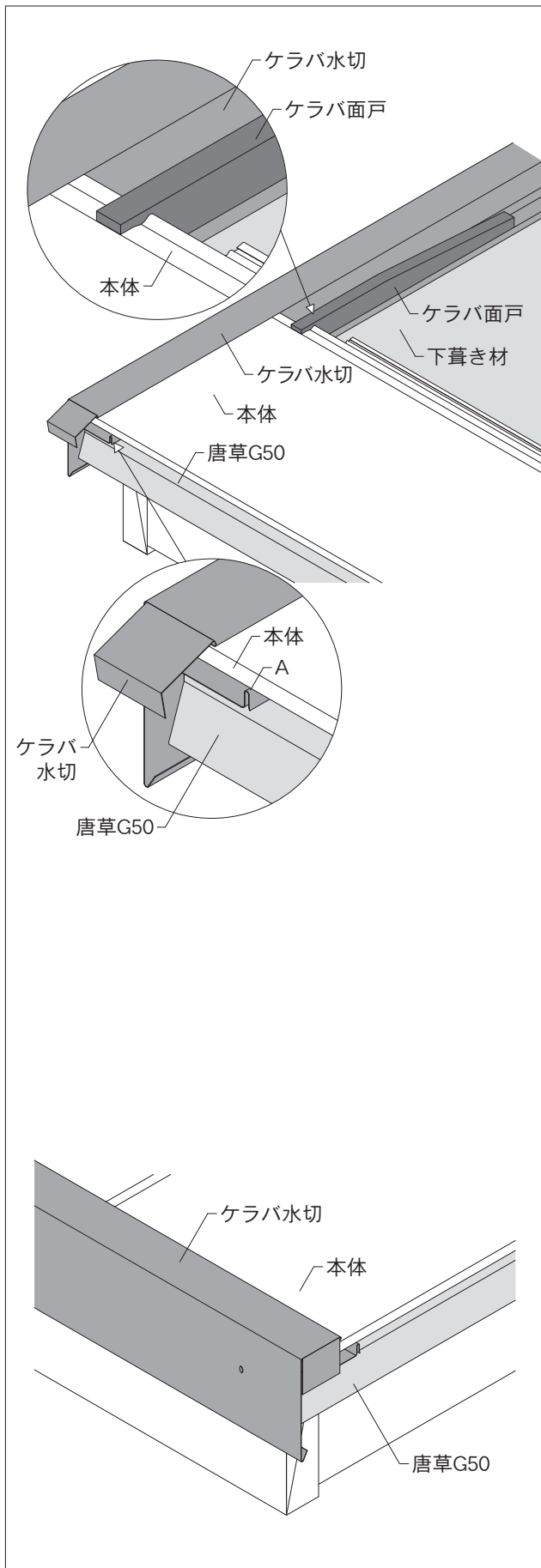


- セラバ面戸は、唐草G50の引っ掛け部から貼りはじめ、セラバ水切のアダ折りに沿って貼り付けてください。引っ掛け部にも隙間がないように密着させてください。



- 切断部から断熱材を100mm程度取り除き、くぎ打ち部を80mm程度切断してください。

各部の納まり



- 本体の一段目の下ハゼは、唐草G50に引っ掛けて、ケラバ水切のAの部分に必ずのせてください。
- ケラバ面戸は、本体かん合部から貼りはじめ、ケラバ水切のアダ折りに沿って貼り付けてください。本体のかん合部にも隙間がないように密着させてください。
- 二段目以降も同様に、ケラバ面戸を施工してから本体を施工してください。

- 本体施工後に、ケラバ水切の軒先を折り曲げてください。
- ケラバ水切エンドを併用する場合、軒先の加工が不要になり施工性が向上します。(P19参照)

事故防止のため

取り扱い時のお願い

アイシールドーフを美しく保つために

アイシールドーフ適用地域一覧

施工に必要な工具と材料

本体規格

部材規格

認定関係

施工の手順

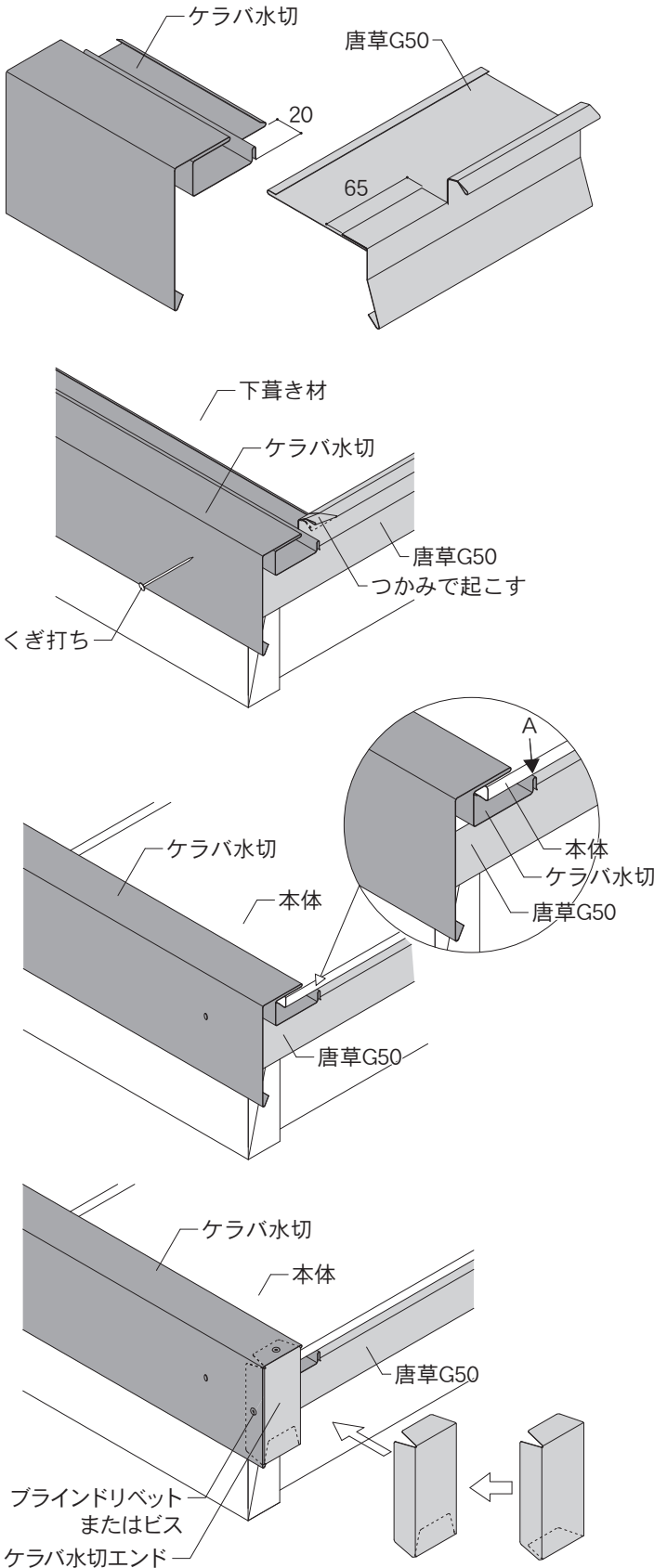
下地の確認

本体の施工とポイント

各部の納まり

積算方法

施工手順 2 <ケラバ水切エンドを併用する場合>



- 唐草G50とケラバ水切の取り合いは、左図のように加工して取り付けてください。
- 唐草G50→下葺き材→ケラバ水切→本体→ケラバ水切エンドの順序で施工してください。
- ケラバ水切同士をつなぐ場合は、P20を参照してください。

○唐草G50の端部を左図のようにつかみで起こしてください。

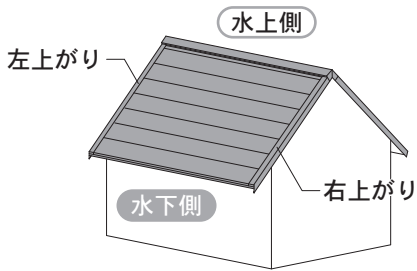
- 本体の加工方法は、P18を参照してください。
- 本体の一段目の下ハゼは、唐草G50に引っ掛けて、ケラバ水切のAの部分に必ずのせてください。

- ケラバ水切エンドの下部を、ケラバ水切の方向に合わせて折り曲げてください。
- ケラバ水切エンドをケラバ水切に差し込み、ブラインドリベットまたはビスで2カ所留め付けてください。
- ブラインドリベットまたはビスはタッチアップペイントで補修してください。

各部の納まり

事故防止のため
 取り扱いのお願い
 アイジールーフを美しく保つために
 アイジールーフ適用地域一覧
 施工に必要な工具と材料
 本体規格
 部材規格
 認定関係
 施工の手順
 下地の確認
 本体の施工とポイント
 各部の納まり
 積算方法

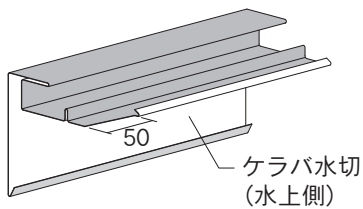
ケラバ水切同士のつなぎ方



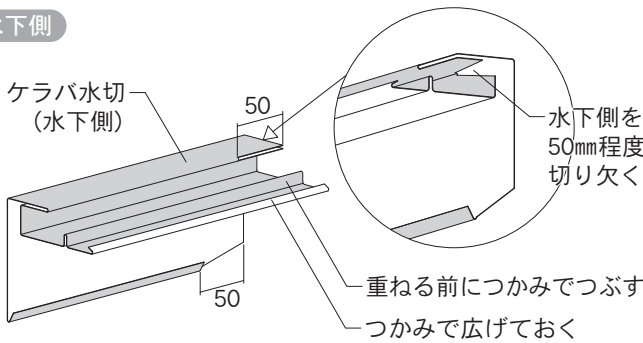
○ケラバ水切同士をつなぐ際は、50mm程度の切り欠き加工をしてください。
 ○施工する方向により切り欠き加工が異なりますので、注意してください。

左上がりの加工

水上側

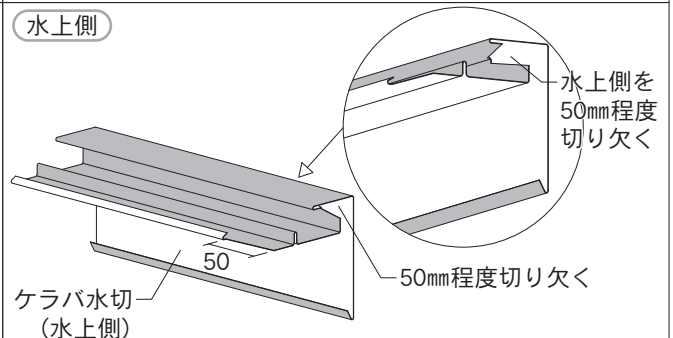


水下側

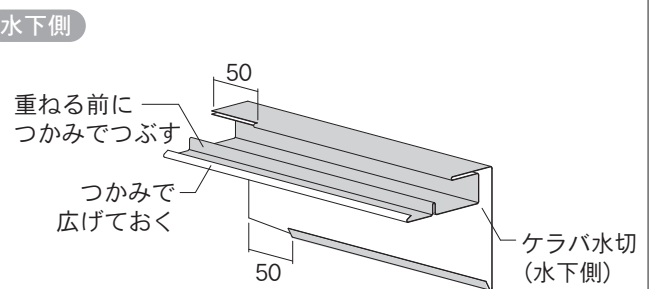


右上がりの加工

水上側

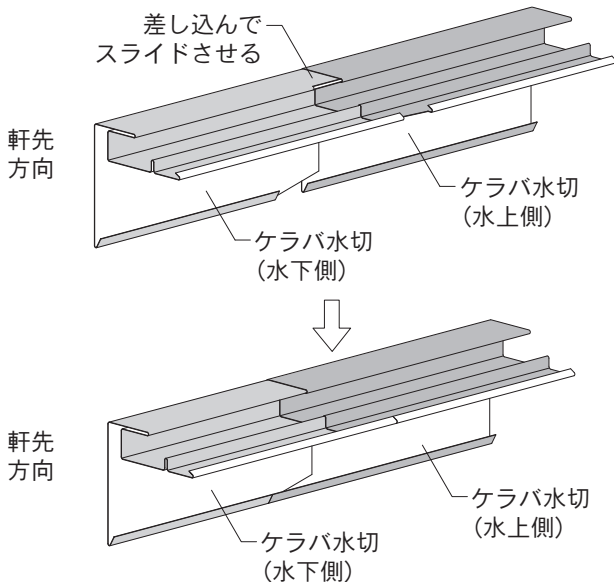


水下側



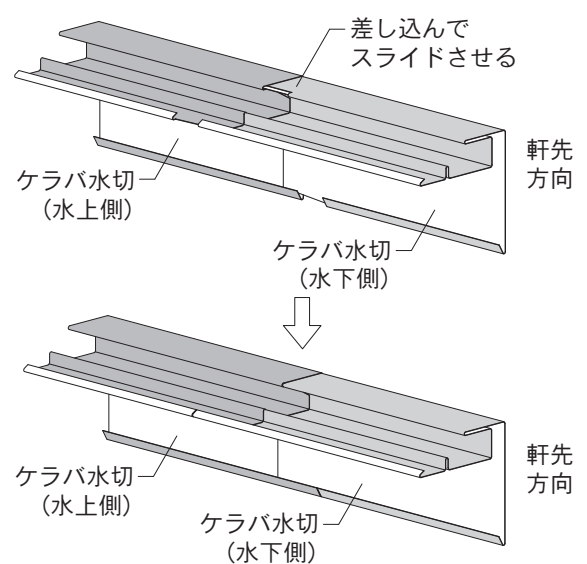
左上がりのつなぎ方

水下側のケラバ水切を下に施工してください。



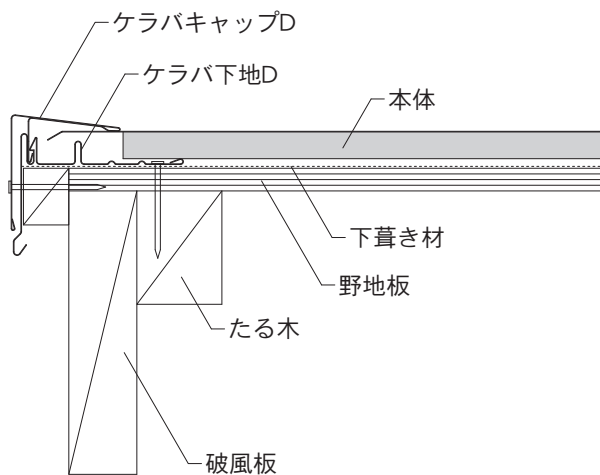
右上がりのつなぎ方

水下側のケラバ水切を下に施工してください。



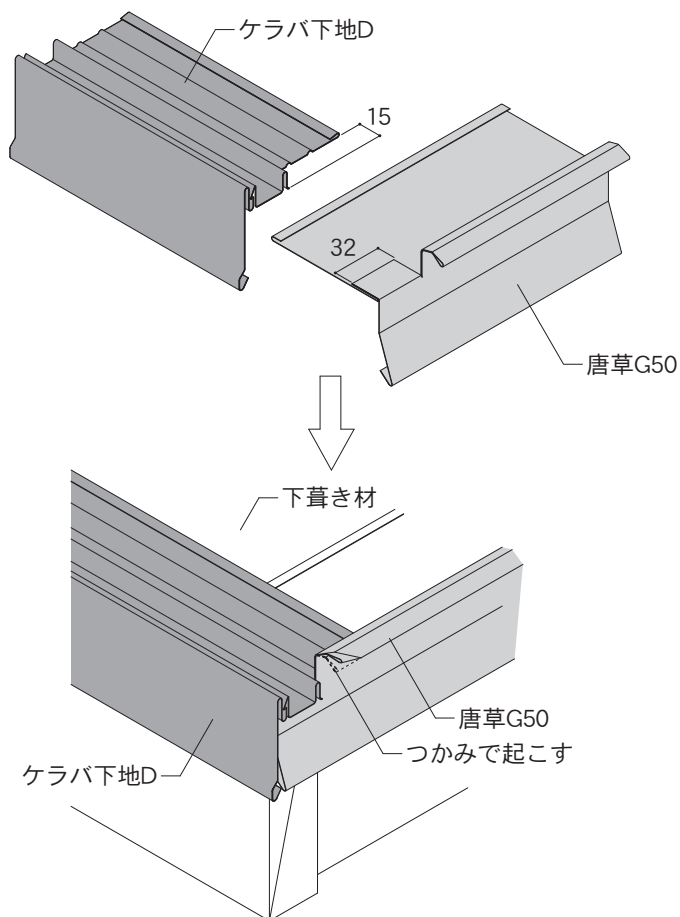
○ケラバの納まり② 〈ケラバキャップD・ケラバ下地D〉

納まり図



○ケラバキャップDは、本体を全面に施工した後に施工してください。

施工手順



○唐草G50とケラバ下地Dは、左図のように切り欠いて組み合わせてください。

○唐草G50の端部を左図のようにつかみで起こしてください。

各部の納まり

○カッターとスクレーパーを使用し、断熱材を40mm程度取り除いてください。
○かん合部を切り欠き、折り曲げてください。

○本体一段目の下ハゼは、唐草G50に引っ掛けて、ケラバ下地DのAの部分に必ずのせてください。

○本体の一段目に施工するケラバキャップDの折り返し部分は、ケラバ下地Dの側面に差し込んでください。
○ケラバキャップDを差し込んで、くぎ打ちしてください。
○ケラバキャップDは、本体を全面に施工した後に施工してください。

事故防止のため

取り扱い時のお願い

アイジールーフを美しく保つために

アイジールーフ適用地域一覧

施工に必要な工具と材料

本体規格

部材規格

認定関係

施工の手順

下地の確認

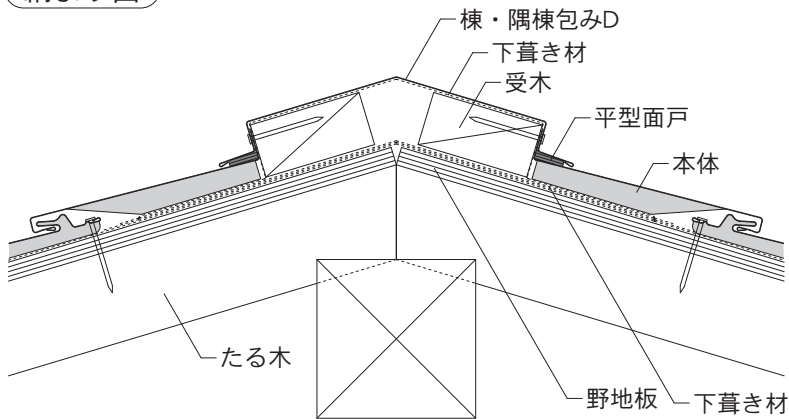
本体の施工とポイント

各部の納まり

積算方法

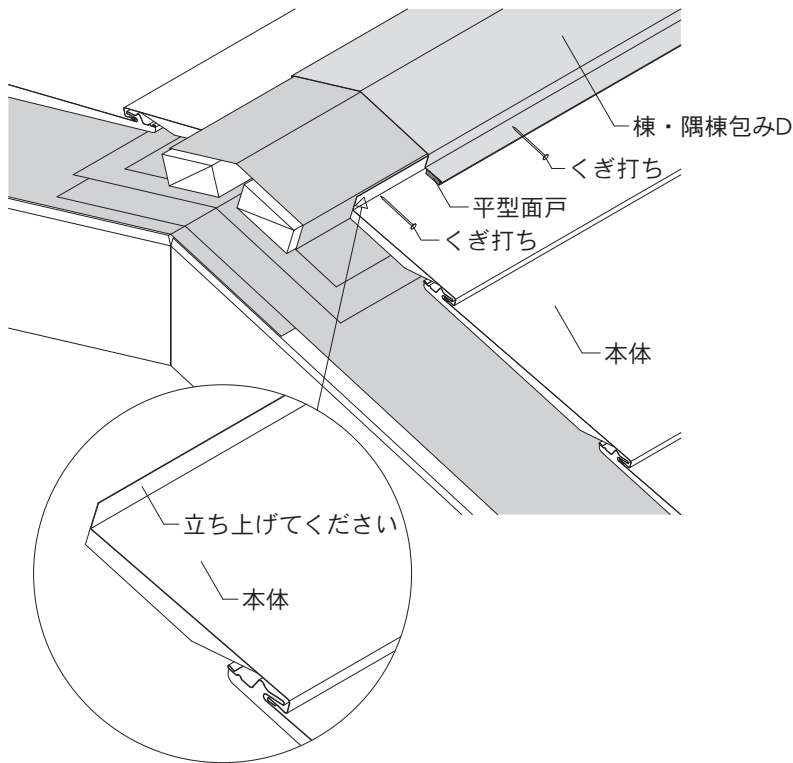
○棟の納まり① <棟・隅棟包みD>

納まり図

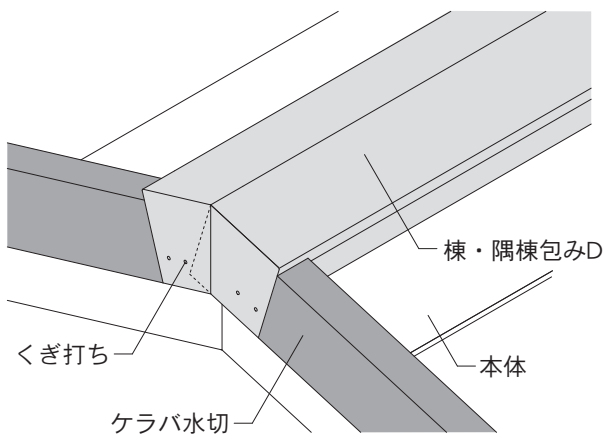


- 受木の勾配に合わせ、高さ36~45mm、幅60~80mmを選定してください。幅30~40mmの受木を使用する場合は、ダブルで施工してください。
- 棟・隅棟包みDをつなぐ場合は、重ね代を150mm以上とり、捨てシーリングを施工し重ねてください。

施工手順 1

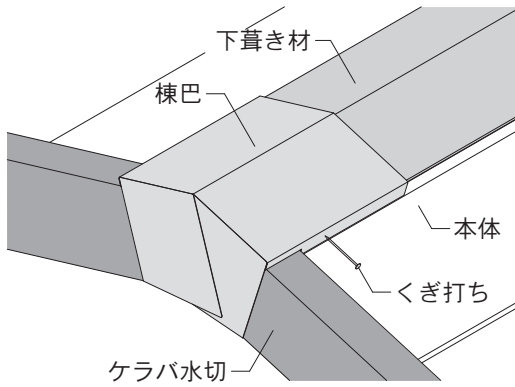


- 受木の位置に合わせて断熱材を取り除き、本体を立ち上げてください。
- 受木の勾配に合わせ、棟・隅棟包みDを取り付け、くぎ打ちしてください。
- 平型面戸は半分以上圧縮して施工してください。

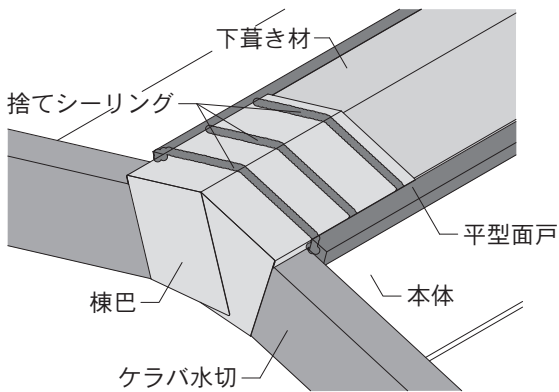


- 棟・隅棟包みDを左図のように加工して納め、くぎ打ちしてください。
- 棟巴を併用する場合、加工が不要になり施工性が向上します。(P24参照)

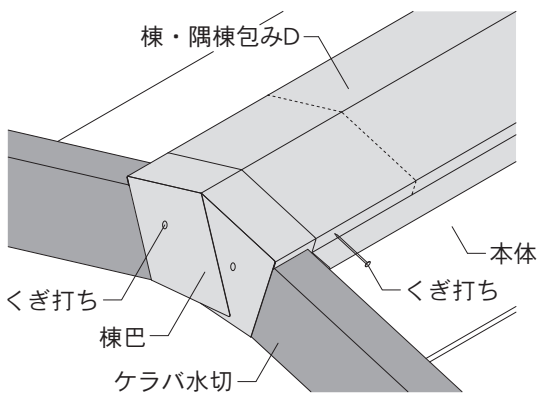
【施工手順 2】 〈棟巴を併用する場合〉 スーパーガルテクト・スーパーガルテクトCのみの仕様です。



○棟巴は、ケラバ部材の幅や勾配に合わせ切り欠いてください。棟巴はケラバ部材につかみ込んでください。



○平型面戸を貼り付け、捨てシーリングを施工してください。



○棟・隅棟包みDを施工し、くぎ打ちしてください。
○平型面戸は半分以上圧縮して施工してください。

事故防止のため

取り扱い時のお願い

アイシールドーフを美しく保つために

アイシールドーフ適用地域一覧

施工に必要な工具と材料

本体規格

部材規格

認定関係

施工の手順

下地の確認

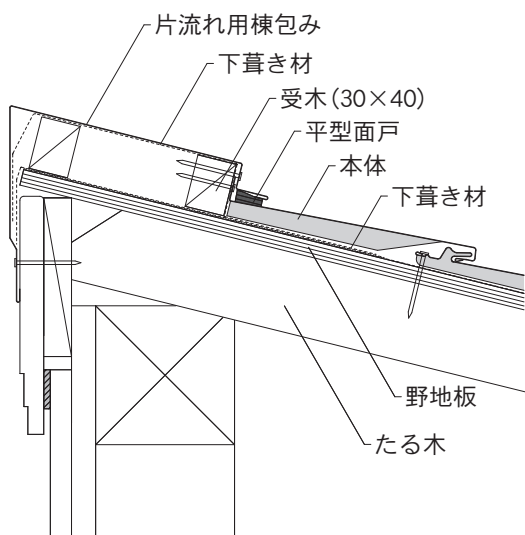
本体の施工とポイント

各部の納まり

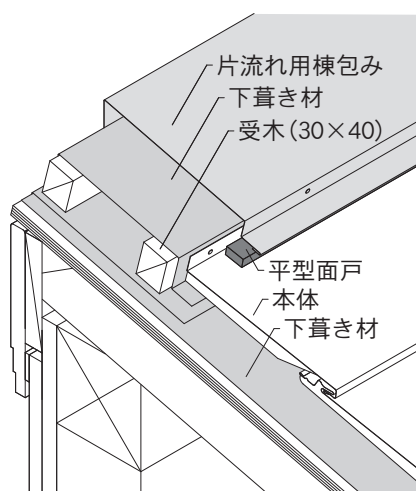
積算方法

○棟の納まり② 〈片流れ用棟包み〉

納まり図

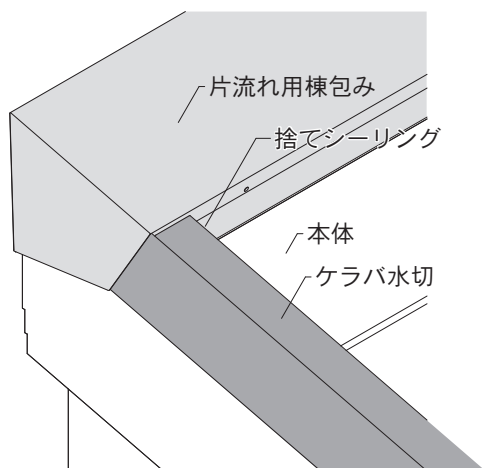


施工手順



○受木の位置に合わせて断熱材を取り除き、本体を立ち上げてください。

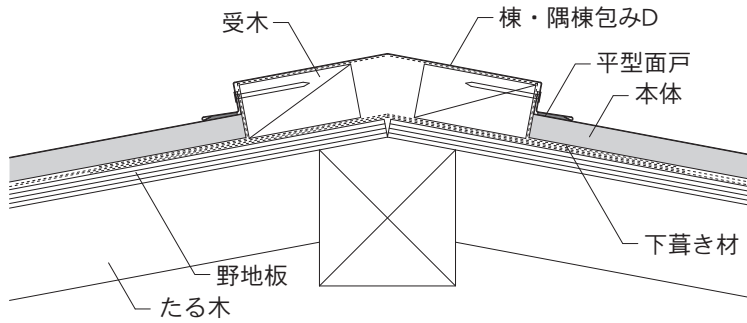
○片流れ用棟包みを取り付け、くぎ打ちしてください。



○片流れ用棟包みの端部は、左図のように加工し、ケラバ部材につかみ込んでください。

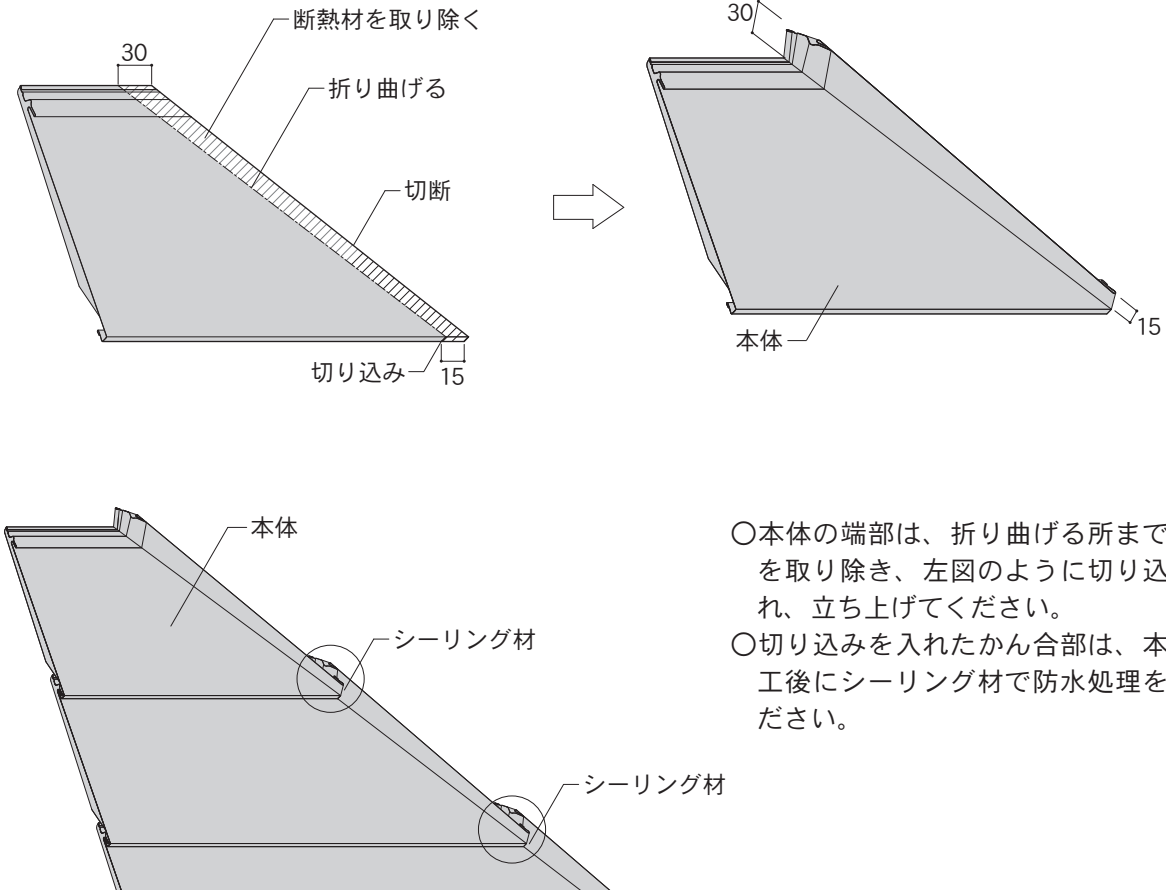
○隅棟の納まり① 〈棟・隅棟包みD〉

納まり図



- 受木の勾配に合わせ、棟・隅棟包みDを折り曲げて取り付け、くぎ打ちしてください。
- 棟・隅棟包みDの中に納める本体の端部は立ち上げてください。
- 受木は、高さ36～45mm、幅60～80mmを選定してください。幅30～40mmの受木を使用する場合は、ダブルで施工してください。

施工手順



- 本体の端部は、折り曲げる所まで断熱材を取り除き、左図のように切り込みを入れ、立ち上げてください。
- 切り込みを入れたかん合部は、本体を施工後にシーリング材で防水処理をしてください。

事故防止のため

取り扱い時のお願い

アイジールーフを美しく保つために

アイジールーフ適用地域一覧

施工に必要な工具と材料

本体規格

部材規格

認定関係

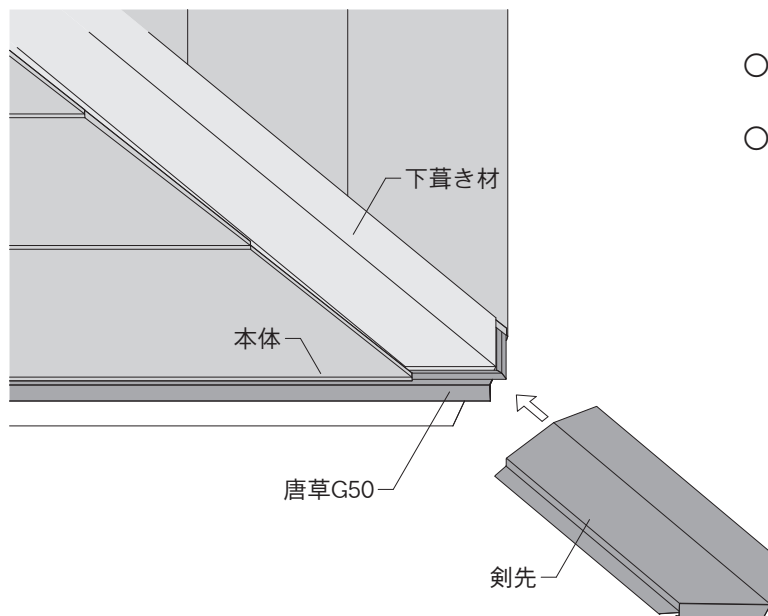
施工の手順

下地の確認

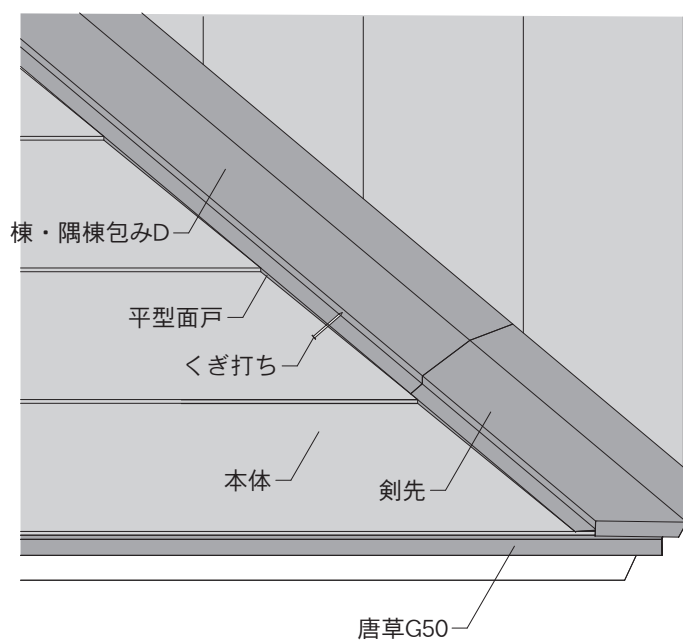
本体の施工とポイント

各部の納まり

積算方法



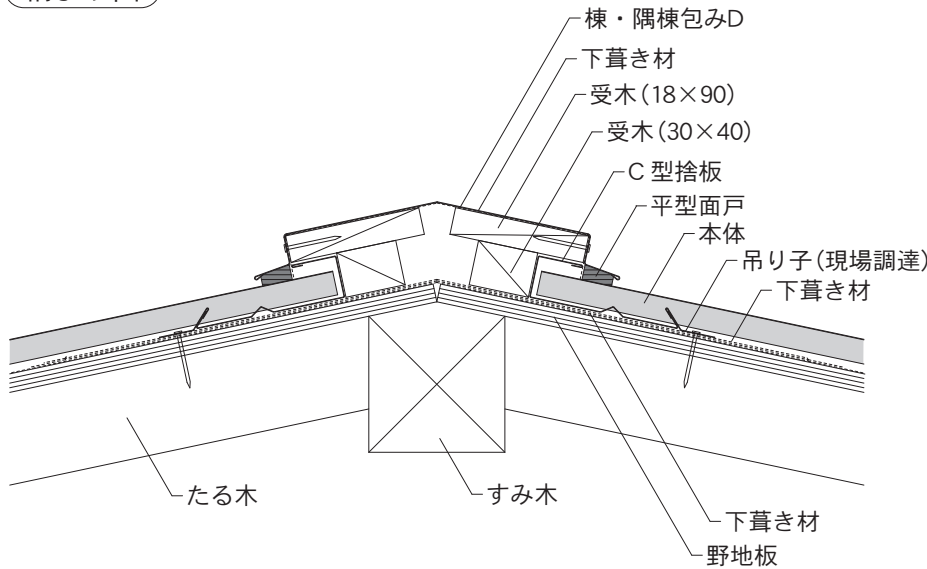
- 剣先を施工してから、棟・隅棟包みDを上から重ねて施工してください。
- 剣先は、2.5寸～4.5寸勾配に対応しています。



- 剣先と棟・隅棟包みDの重ね代は150mm以上とり、捨てシーリングを施工し重ねてください。

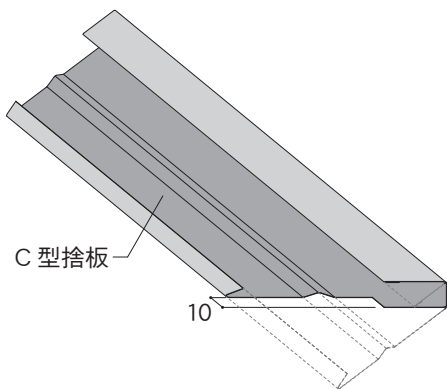
○隅棟の納まり② 〈棟・隅棟包みD・C型捨板〉

納まり図

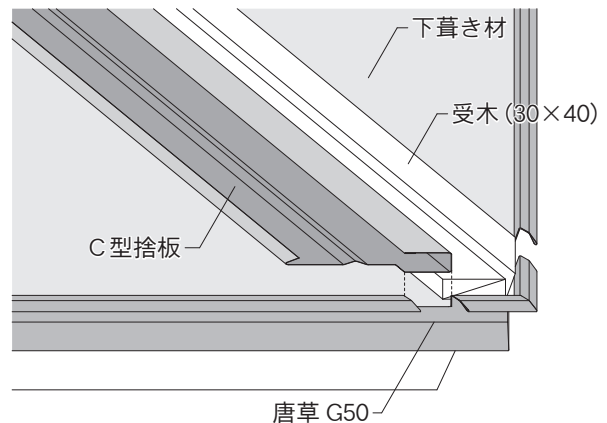


○C型捨板を施工することで、本体の立ち上げ加工を省くことができ、施工性と止水性が向上します。

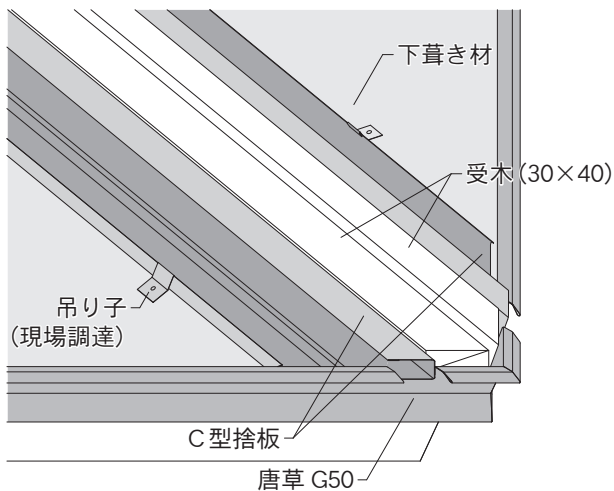
施工手順



○勾配に合わせてC型捨板を切断し、図のように10mm程度切り欠いてください。



○C型捨板の切り欠き部分に合わせ、唐草G50を切り欠いてください。



○唐草G50の切り欠いた部分にC型捨板を合わせ、10mm程度唐草G50の上に出してください。
○C型捨板は、吊り子（現場調達）を使用し留め付けてください。

事故防止のため

取り扱いのお願い

アイジールーフを美しく保つために

アイジールーフ適用地域一覧

施工に必要な工具と材料

本体規格

部材規格

認定関係

施工の手順

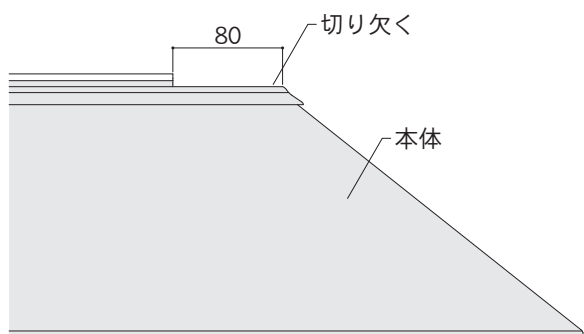
下地の確認

本体の施工とポイント

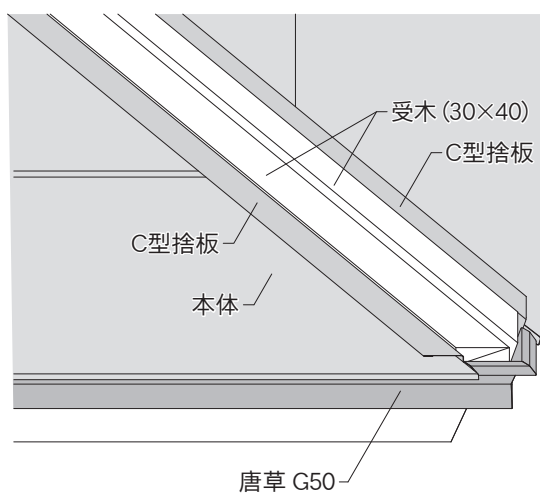
各部の納まり

積算方法

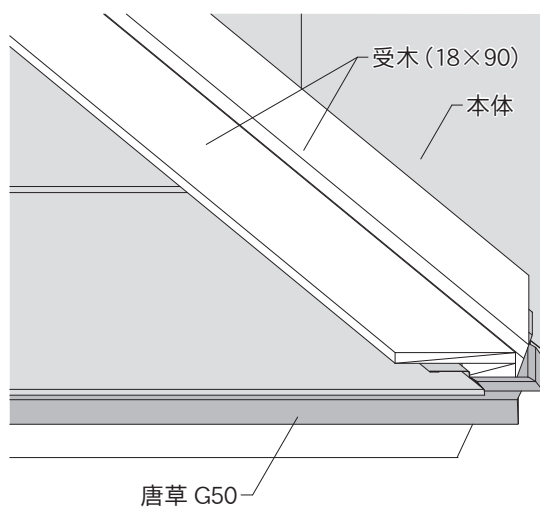
各部の納まり



○勾配に合わせて本体を切断し、くぎ打ち部を80mm程度切り欠いてください。

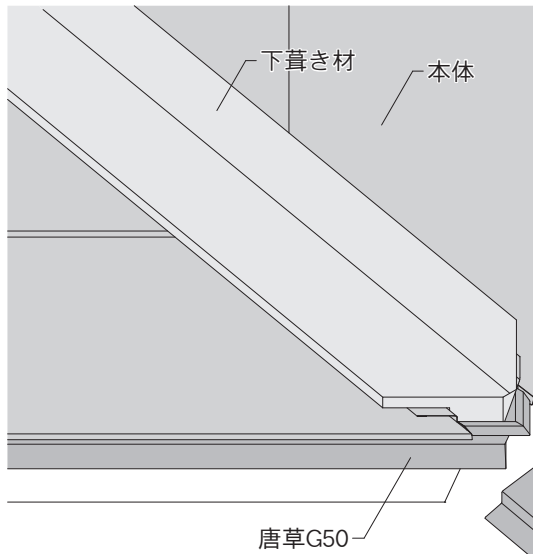


○本体は、C型捨板に差し込んで施工してください。

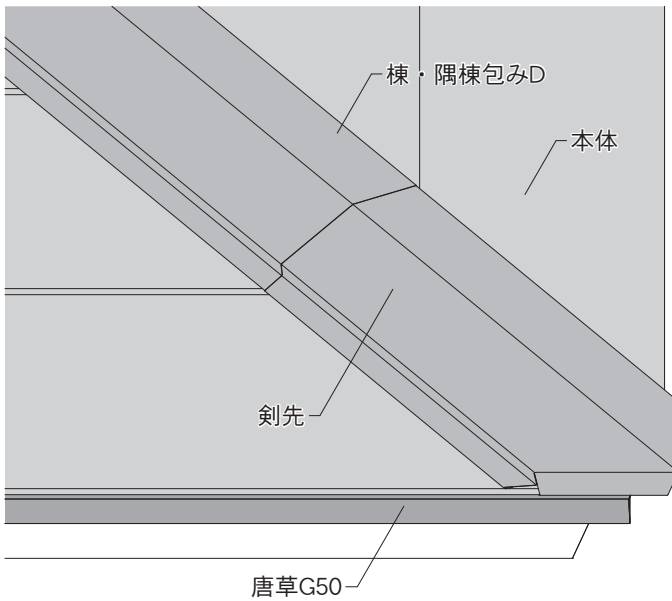
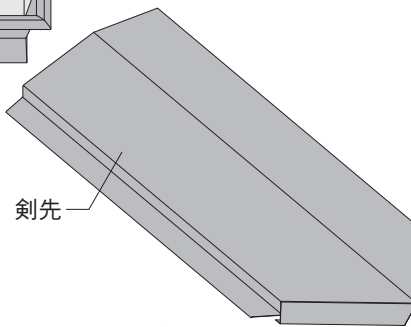


○本体を施工した後、受木 (18×90) を軒先に合わせ施工してください。

各部の納まり

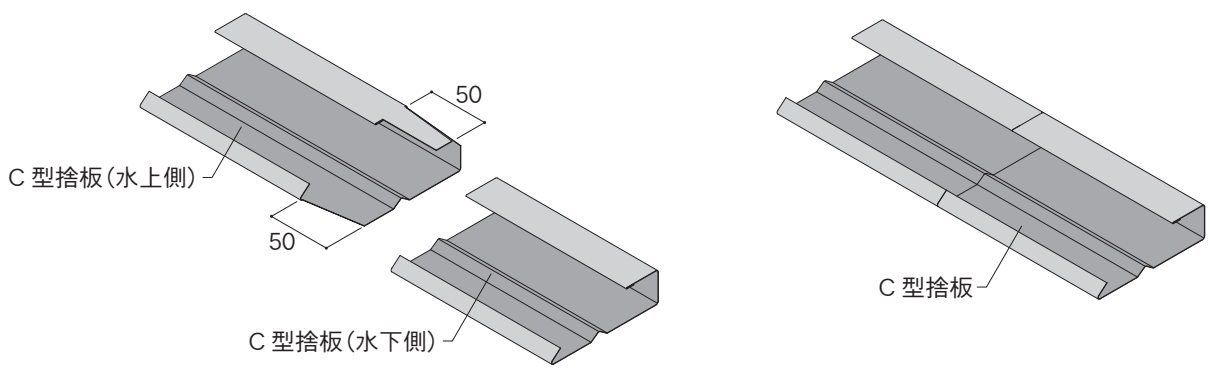


- 本体に、平型面戸を貼ってください。
- 剣先を施工してから、棟・隅棟包みDを上から重ねてください
- 剣先は、2.5寸～4.5寸勾配に対応しています。



- 剣先と、棟・隅棟包みDの重ね代は、150mm以上とり捨てシーリングを施工し重ねてください。

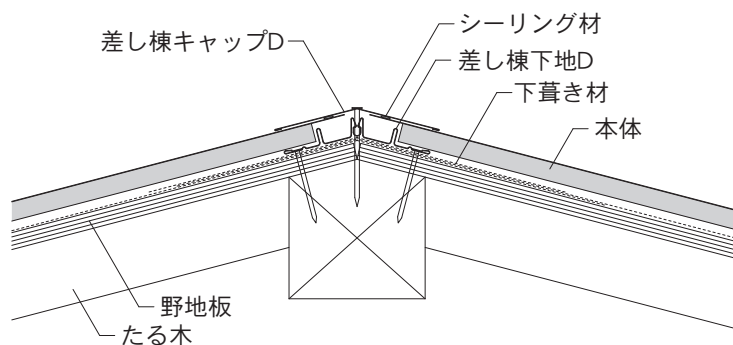
C型捨板のつなぎ方



事故防止のため
取り扱いのお願い
アイジールーフを美しく保つために
アイジールーフ適用地域一覧
施工に必要な工具と材料
本体規格
部材規格
認定関係
施工の手順
下地の確認
本体の施工とポイント
各部の納まり
積算方法

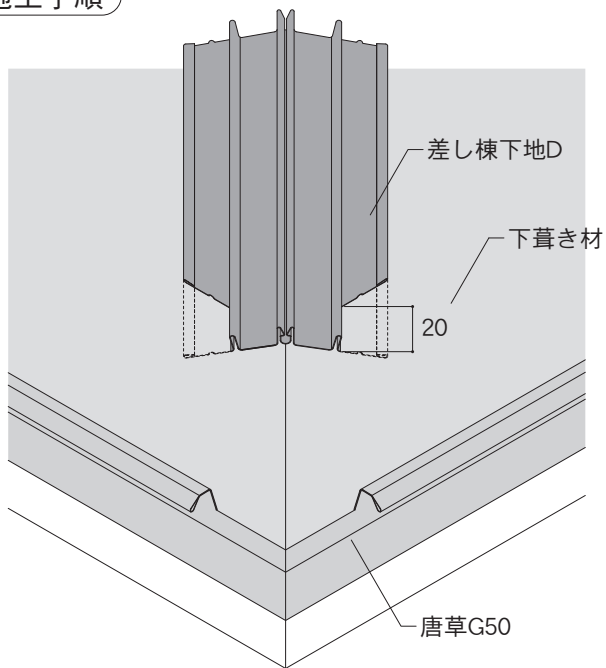
○隅棟の納まり③ 〈差し棟キャップD・差し棟下地D〉

納まり図

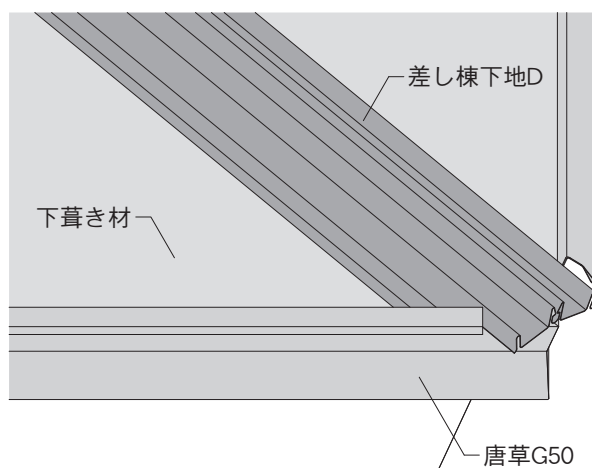


○差し棟キャップDは、本体を全面に施工した後に施工してください。

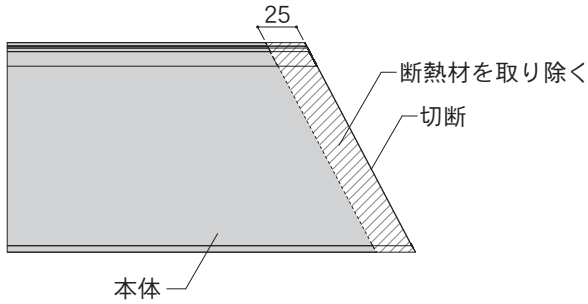
施工手順



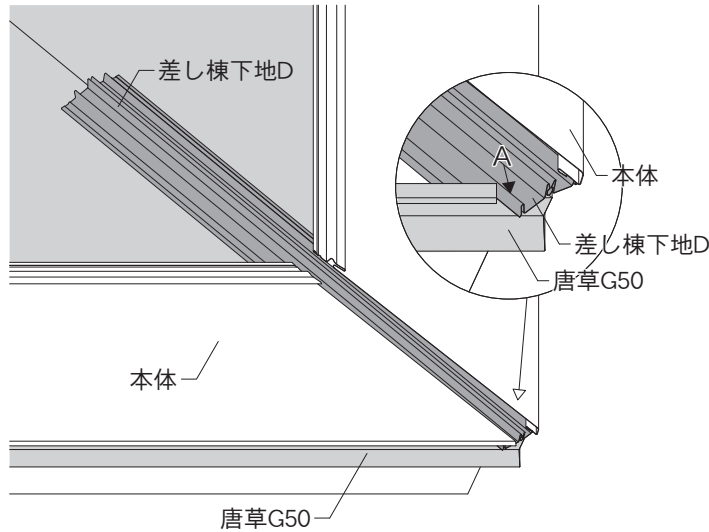
○左図のように、唐草G50と差し棟下地Dを切り欠いてください。
差し棟下地Dの切り欠きは20mm程度を目安とし、差し棟キャップDからはみ出さないように現場で合わせて切り欠いてください。



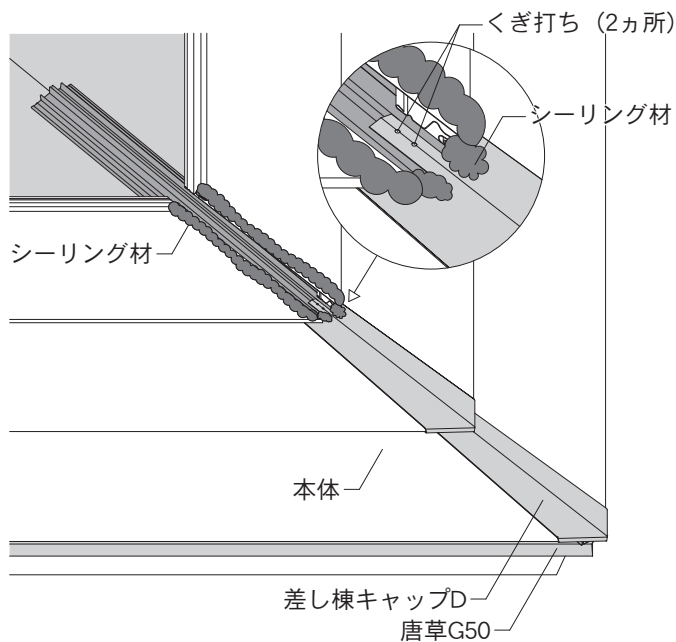
各部の納まり



○カッターとスクレーパーを使用し、断熱材を25mm程度取り除いてください。



○本体の一段目の下ハゼは、唐草G50に引っ掛けて、差し棟下地DのAの部分に必ずのせてください。



○左図のように、捨てシーリングを施工してください。差し棟キャップDを下地に留め付けてください。

事故防止のため

取り扱い時のお願い

アイシールドーフを美しく保つために

アイシールドーフ適用地域一覧

施工に必要な工具と材料

本体規格

部材規格

認定関係

施工の手順

下地の確認

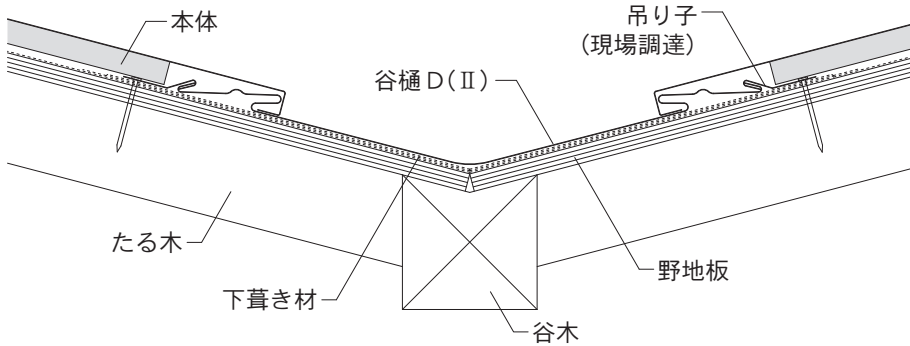
本体の施工とポイント

各部の納まり

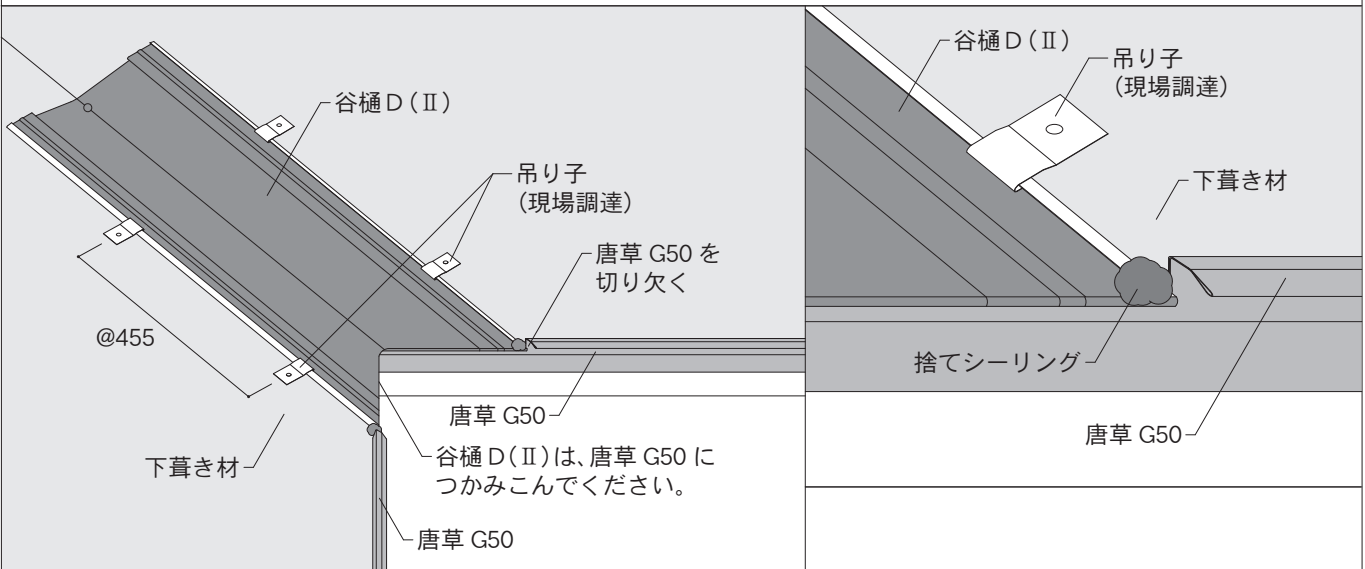
積算方法

○谷の納まり 〈谷樋D(Ⅱ)〉

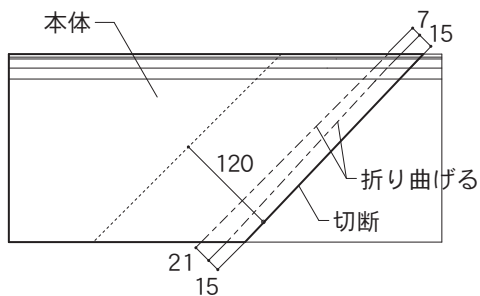
納まり図



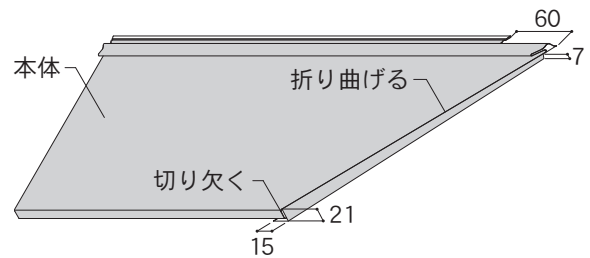
施工手順



- 谷樋D(Ⅱ)の幅に合わせて、唐草G50を加工し、谷樋D(Ⅱ)は、唐草G50につかみこんでください。
- 谷樋D(Ⅱ)は、吊り子を使用し、455mmの間隔で固定してください。
- 唐草G50と谷樋D(Ⅱ)の取り合いには、本体を施工する前に捨てシーリングを施工してください。

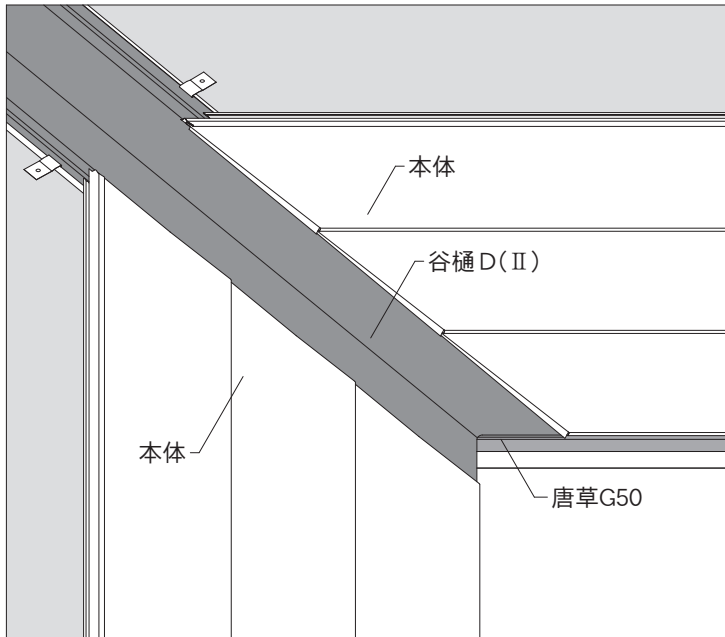


○断熱材は、切断部から120mm程度取り除いてください。



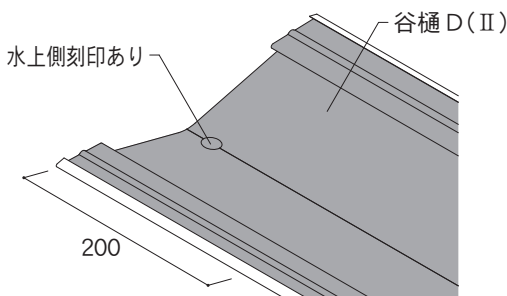
○くぎ打ち部を60mm程度切断してください。かん合部を切り欠き、折り曲げてください。

各部の納まり

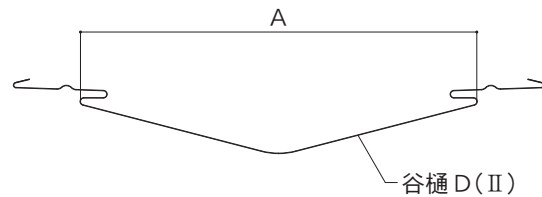


○本体は、谷樋D(II) のハゼに引っかけて施工してください。

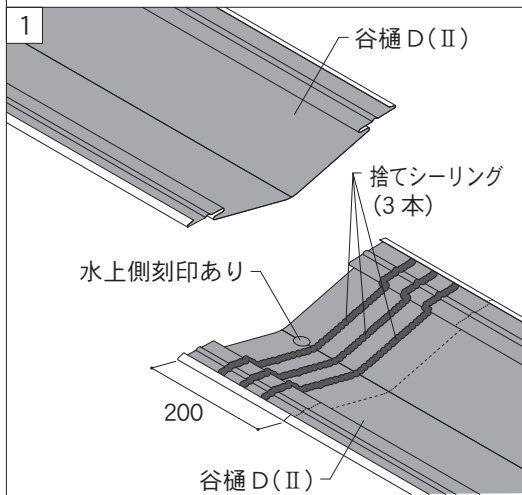
谷樋D(II) 同士のつなぎ方



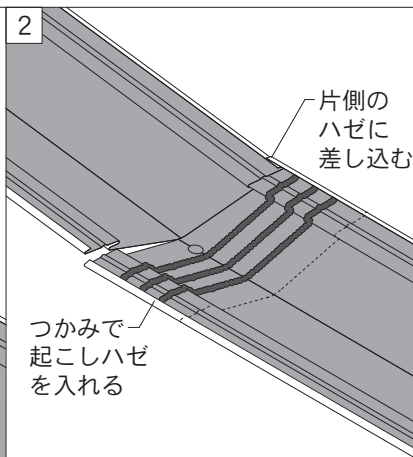
○谷樋D(II) は、刻印がある方を水上側にして施工してください。



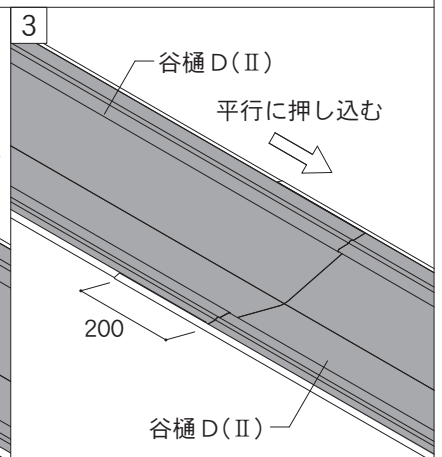
○谷樋D(II) 同士をつなぐ際は、必ず刻印がある箇所を下にしてつないでください。刻印がある側は、Aの部分が広がっており、つなぎやすくなっています。



○谷樋D(II) は、刻印がある方に、φ8 mm 程度（鉛筆の太さ程度）の捨てシーリングを3本施工してください。



○片側のハゼを入れてから、もう片方のハゼを入れます。



○はみ出した捨てシーリングは、除去してください。

事故防止のため

取り扱いのお願い

アイジールーフを美しく保つために

アイジールーフ適用地域一覧

施工に必要な工具と材料

本体規格

部材規格

認定関係

施工の手順

下地の確認

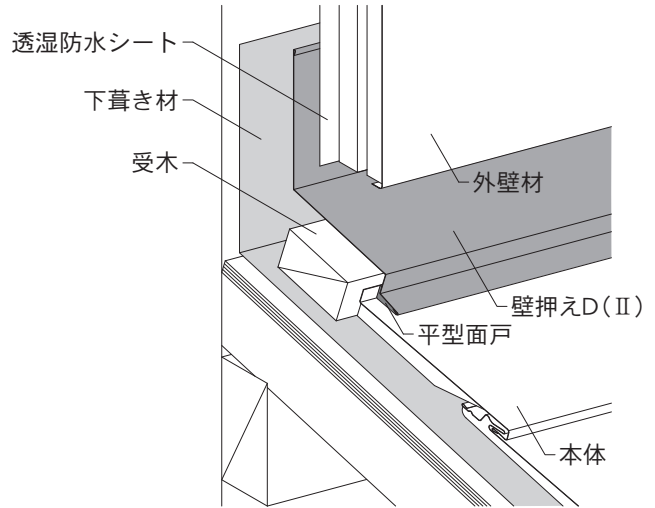
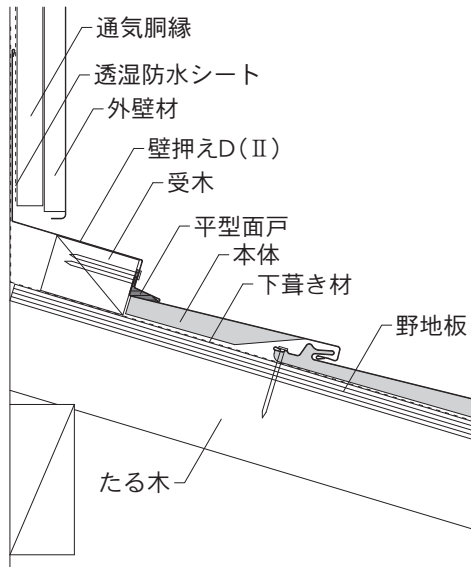
本体の施工とポイント

各部の納まり

積算方法

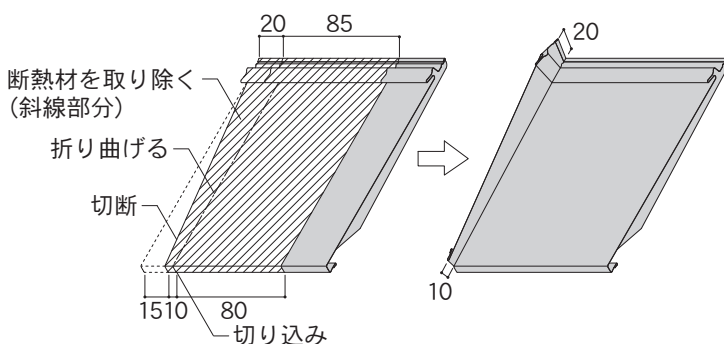
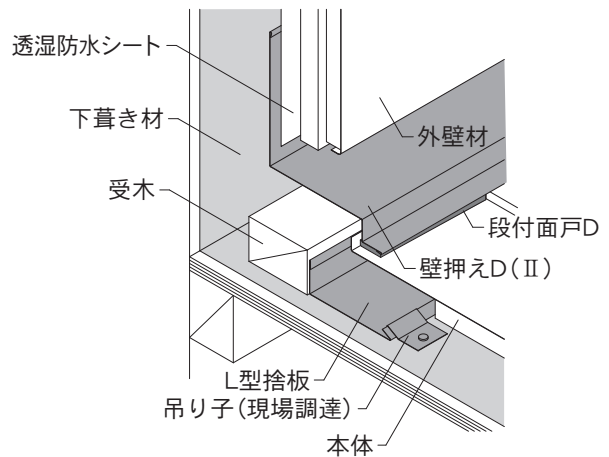
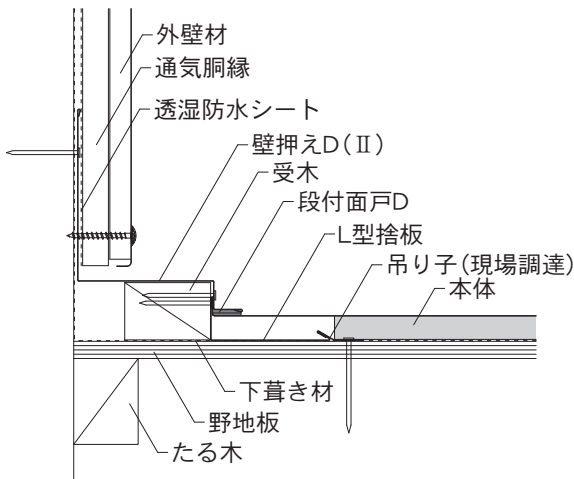
○壁との納まり①

〈流れと垂直な壁との納まり〉



- 壁押えD(II) 内に納める本体の端部は、不要な部分は切り取り、立ち上げてください。
- 本体立ち上げ部の受木の高さは、立ち上げの高さにあわせて調整してください。
- 平型面戸は、半分以上圧縮して施工してください。

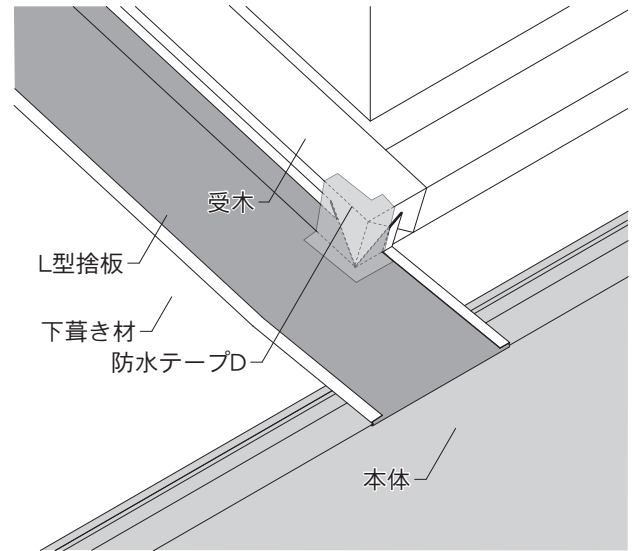
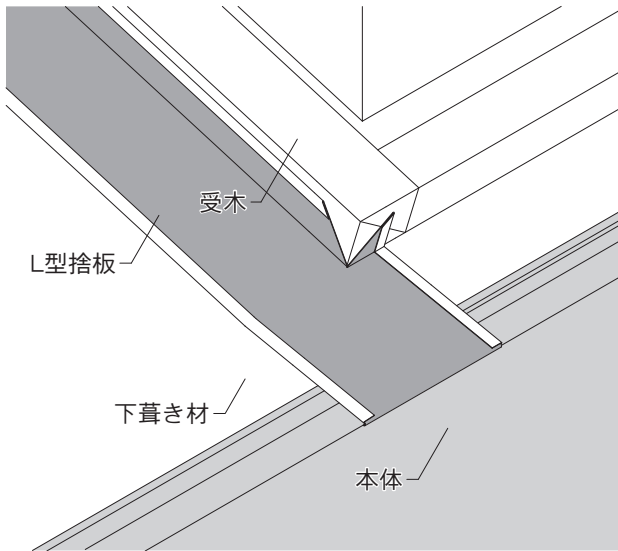
〈流れと平行な壁との納まり〉



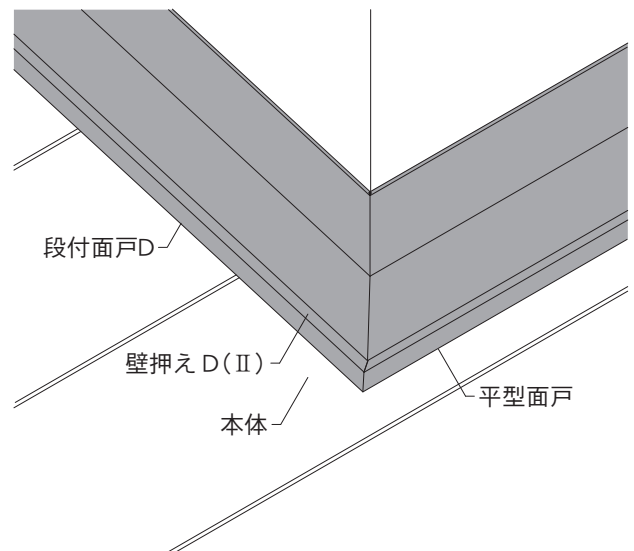
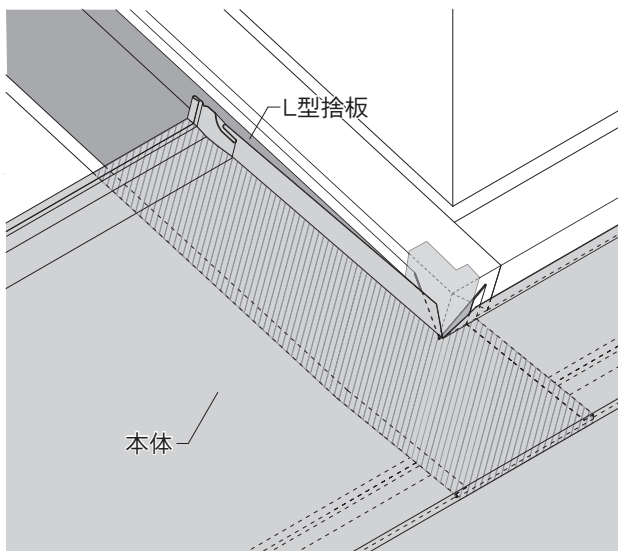
- 本体の端部は、断熱材を取り除き立ち上げてください。
- 切り込みを入れたかん合部は、本体を施工後にシーリング材で防水処理をしてください。
- 段付面戸Dは、壁押えD(II) と本体の間にに入れてください。
- 受木の高さは36~45mmとし、幅は60~80mmを選定してください。幅30~40mmの受木を使用する場合は、ダブルで施工してください。

各部の納まり

〈コーナー部分の壁との納まり〉



- L型捨板を下の段の本体に引っ掛けるように取り付けてください。
- コーナー部には、防水テープDを施工してください。



- コーナー部の位置に合わせて本体を切り欠き、L捨板の幅に合わせて断熱材（斜線部分）を取り除いてください。
- 本体の端部を立ち上げて施工してください。

事故防止のため

取り扱い時のお願い

アイジールーフを美しく保つために

アイジールーフ適用地域一覧

施工に必要な工具と材料

本体規格

部材規格

認定関係

施工の手順

下地の確認

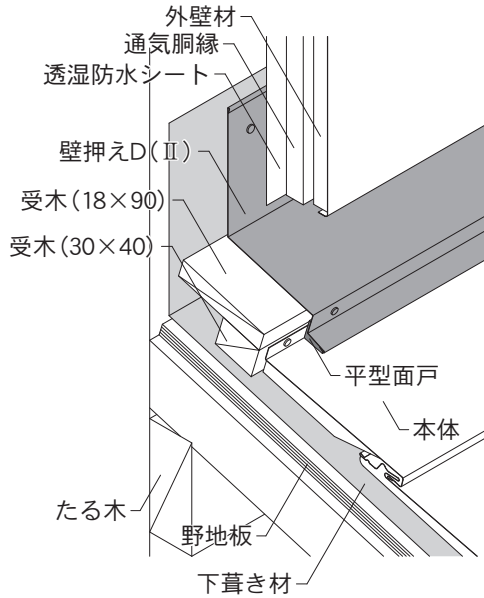
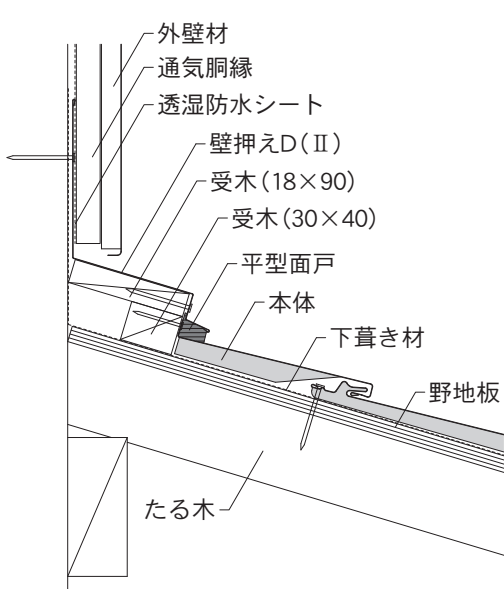
本体の施工とポイント

各部の納まり

積算方法

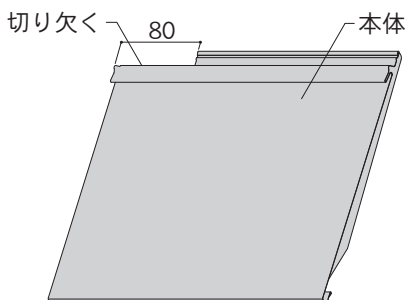
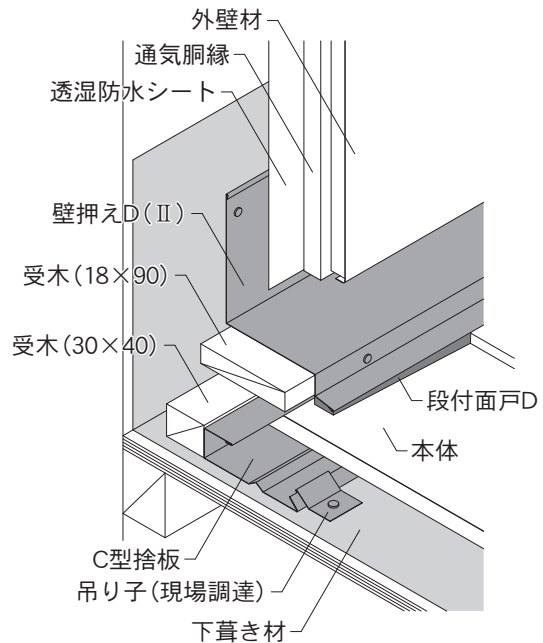
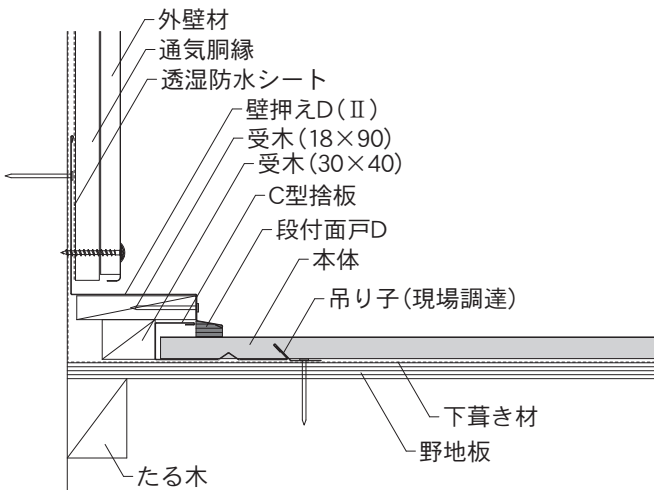
○壁との納まり②

〈流れと垂直な壁との納まり〉



- 壁押えD(II) 内に納める本体の端部は、不要な部分は切り取り、立ち上げてください。
- 本体立ち上げ部の受木の高さは、立ち上げの高さにあわせて調整してください。
- 平型面戸は、半分以上圧縮して施工してください。

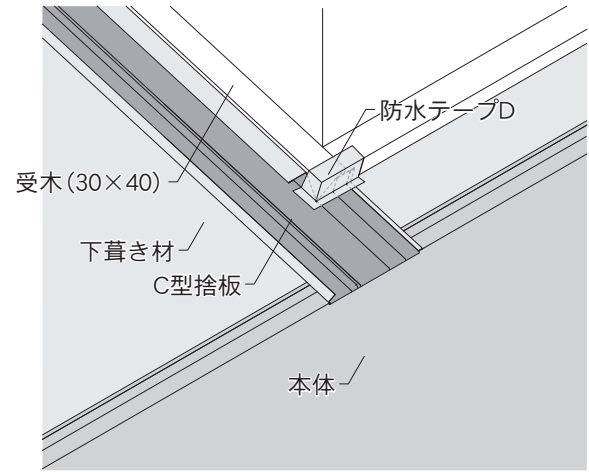
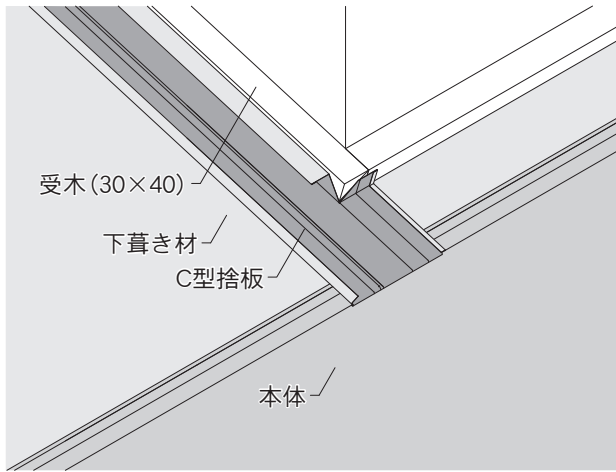
〈流れと平行な壁との納まり〉



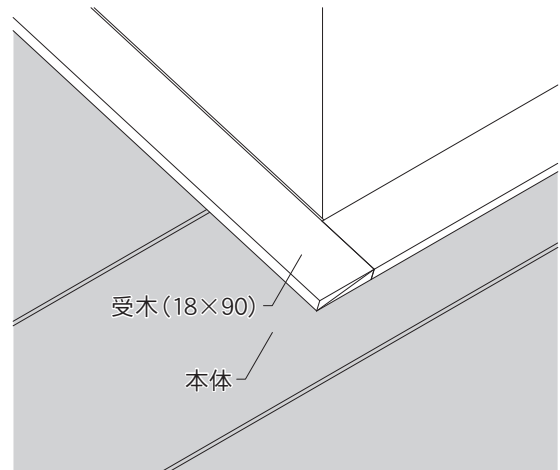
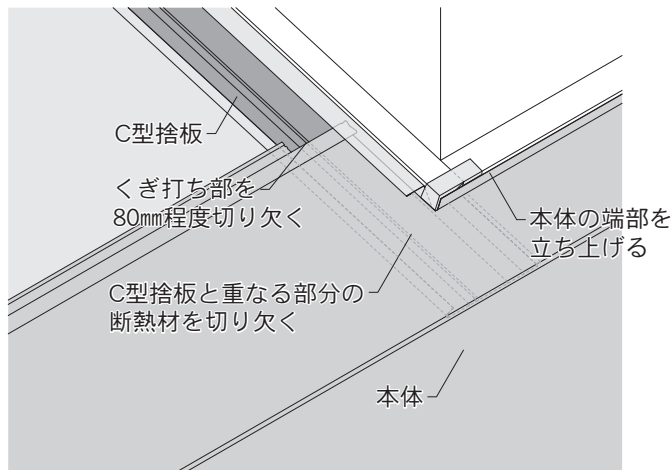
- C型捨板は吊り子を使用し、留め付けてください。
- 流れと垂直な壁との取り合いがある場合は、受木のサイズを合わせてください。
- 本体の端部のくぎ打ち部は、80mm程度切断してください。

各部の納まり

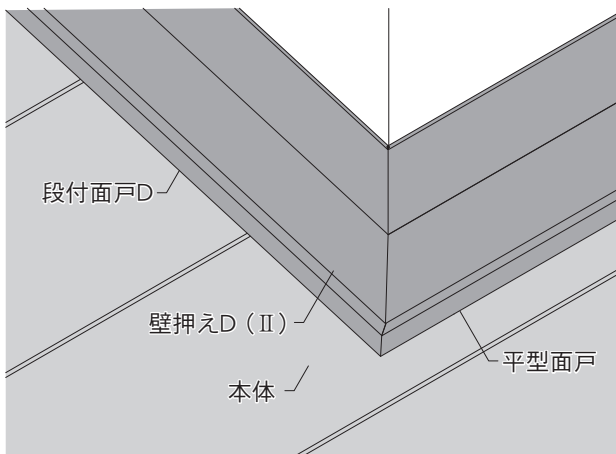
〈コーナー部分の壁との納まり〉



- C型捨板を下の段の本体に引っ掛けるように取り付けてください。
- コーナー部には、防水テープDを施工してください。



- コーナー部の位置に合わせて本体を切り欠き、C型捨板の幅に合わせて断熱材を取り除いてください。



- 段付面戸D、平型面戸を本体に貼り付けてから、壁押えD (II)を施工してください。

事故防止のため

取り扱いのお願い

アイジールーフを美しく保つために

アイジールーフ適用地域一覧

施工に必要な工具と材料

本体規格

部材規格

認定関係

施工の手順

下地の確認

本体の施工とポイント

各部の納まり

積算方法

○換気棟の納まりについて

適用勾配

換気棟／換気棟Lは、屋根勾配2.5寸～10寸に施工できます。
片流れ用換気棟は、屋根勾配2.5寸～6寸に施工できます。

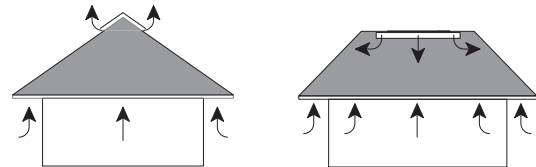
有効開口面積

	有効開口面積 (m ² /セット)	適応天井面積 (m ² /セット)
換気棟	0.017	27.2
換気棟L	0.028	44.8
片流れ用換気棟	0.016	25.6

各換気棟の設置基準について

住宅金融支援機構 木造住宅工事仕様書に記載の基準に基づく小屋裏換気を行ってください。
軒裏吸気、棟排気に該当します。施工本数は、施工する部材の有効換気面積および適応天井面積に応じて必要長さを算出してください。

軒裏吸気孔：1/900以上
棟排気孔：1/1,600以上



商品図

商品名	商品図	換気棟／換気棟L 併用商品	
		商品名	商品図
換気棟		換気棟用エンドキャップ (別売)	
換気棟L			

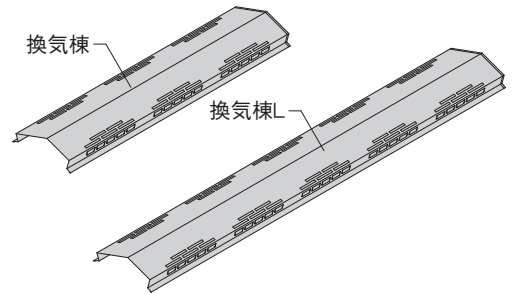
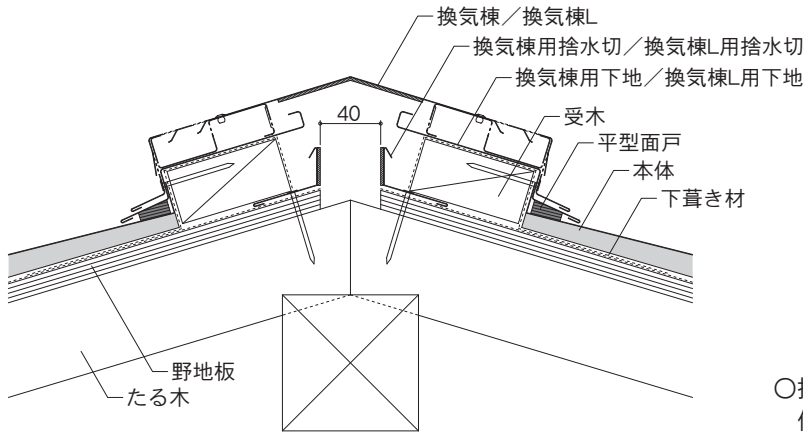
・換気棟と換気棟Lの1セットには、換気棟本体の他に下地（2本）、捨水切（2本）が同梱されています。換気棟または換気棟Lと棟・隅棟包みDとつなぐ場合には、換気棟用エンドキャップ併用してください。

商品名	商品図	片流れ用換気棟 併用商品	
		商品名	商品図
片流れ用換気棟		片流れ用棟包み (別売)	
		片流れ換気用水切 (別売)	

・片流れ用換気棟1セットには、片流れ用換気棟本体のほかに、片流れ換気用水切（1本）、捨水切（1本）、固定ビス（6本）が同梱されています。
・片流れ用換気棟と片流れ用棟包みをつなぐ場合、片流れ換気棟用水切を施工してください。

○換気棟の納まり① 〈換気棟／換気棟L〉

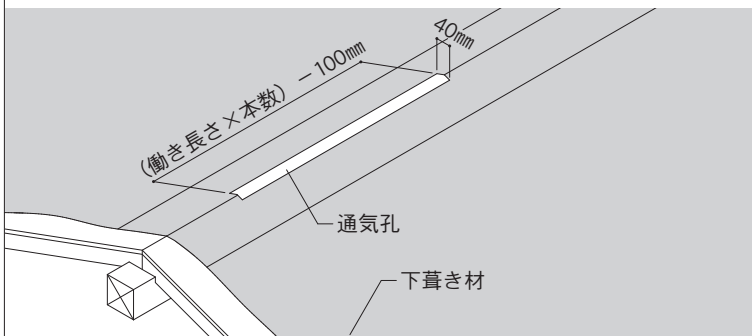
納まり図



○換気棟と換気棟Lの1セットには、換気棟本体の他に下地（2本）、捨水切（2本）が同梱されています。

施工手順 〈図は換気棟です。換気棟Lも同様に施工いただけます〉

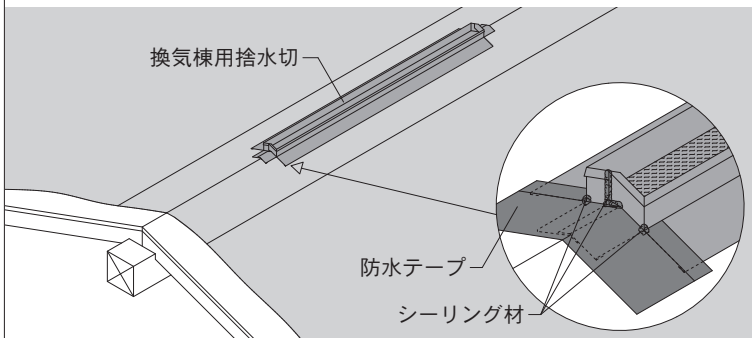
1. 開口をあける



○棟部に左図の寸法で開口を設けてください。

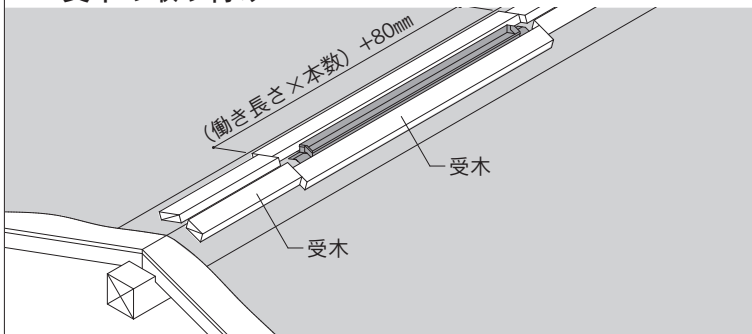
	換気棟	換気棟L
働き長さ (mm)	1,050	1,750
商品長さ (mm)	1,130	1,830
対応勾配 (寸)	2.5～10	

2. 換気棟用捨水切の施工



- 開口に合わせて換気棟用捨水切を取り付けてください。
- 換気棟用捨水切の加工部はシーリング材で防水処理をしてください。
- 換気棟用捨水切と下葺き材とのすき間は防水テープDで防水処理をしてください。

3. 受木の取り付け



- 棟・隅棟包みDと換気棟の取り付け位置に合わせて、受木を取り付けてください。
- 受木は、高さ36～45mm、幅60～80mmを選んでください。幅30～40mmの受木を使用する場合は、ダブルで施工してください。
- 換気棟取り付け部の受木の長さは左図の寸法で取り付けてください。

事故防止のため

取り扱いのお願い

アイシールドーフを美しく保つために

アイシールドーフ適用地域一覧

施工に必要な工具と材料

本体規格

部材規格

認定関係

施工の手順

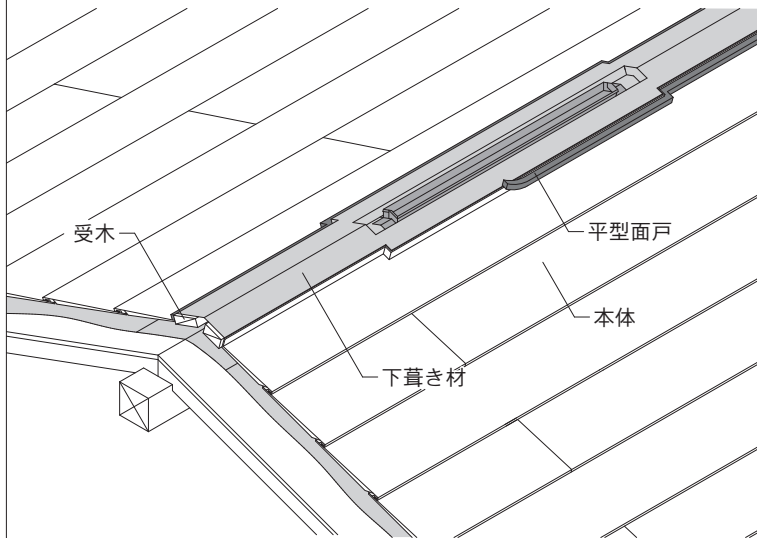
下地の確認

本体の施工とポイント

各部の納まり

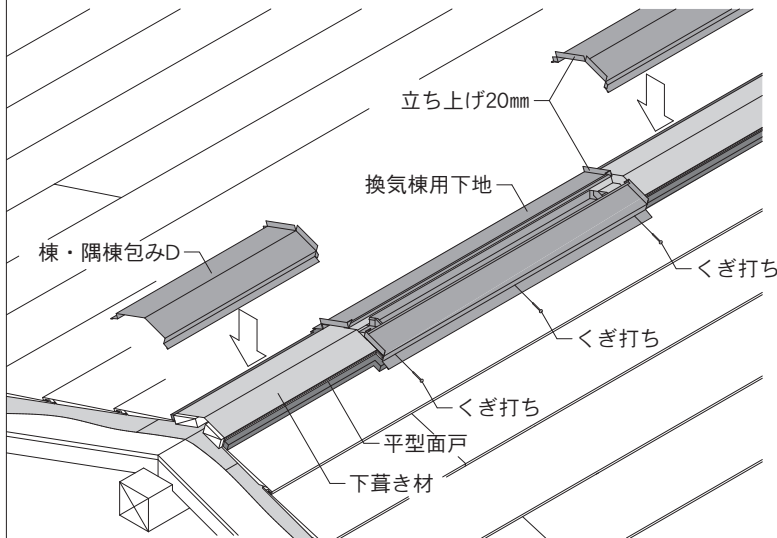
積算方法

4. 下葺き材と平型面戸の施工



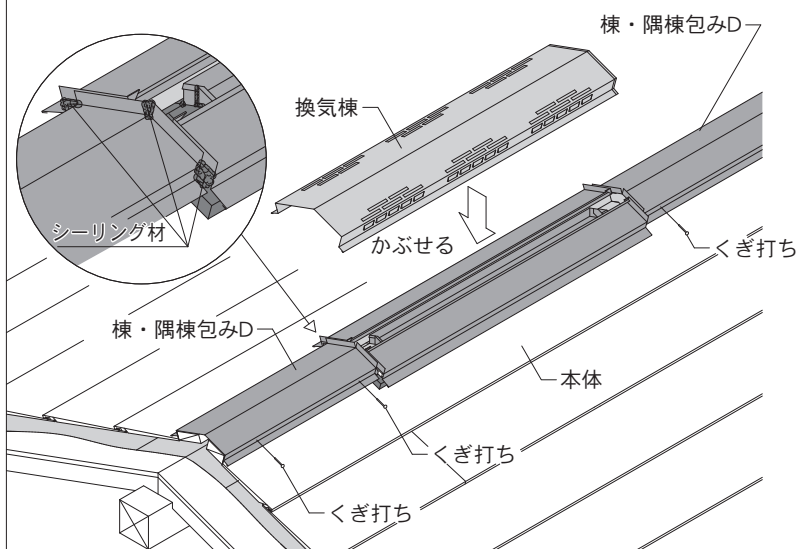
- 受木の上の下葺き材を張ってください。
- 受木まで本体を張り上げ、平型面戸を貼り付けてください。

5. 換気棟用下地と棟・隅棟包みDの施工



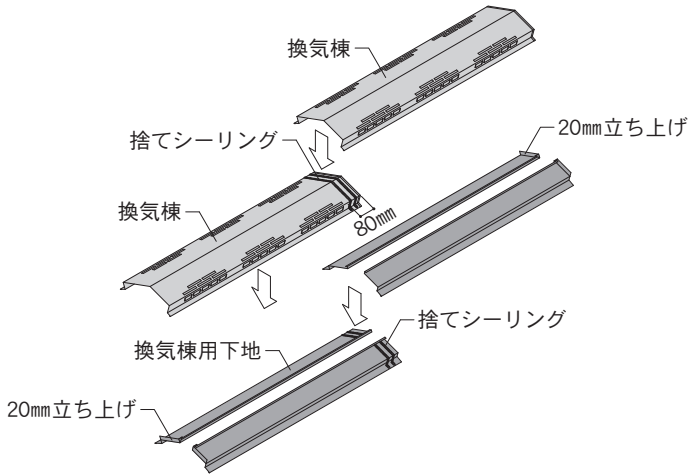
- 換気棟用下地と棟・隅棟包みDを20mm立ち上げ加工し取り付け、くぎ打ちしてください。図は、換気棟で掲載しています。
- 平型面戸は半分以上圧縮して施工してください。

6. 換気棟の施工



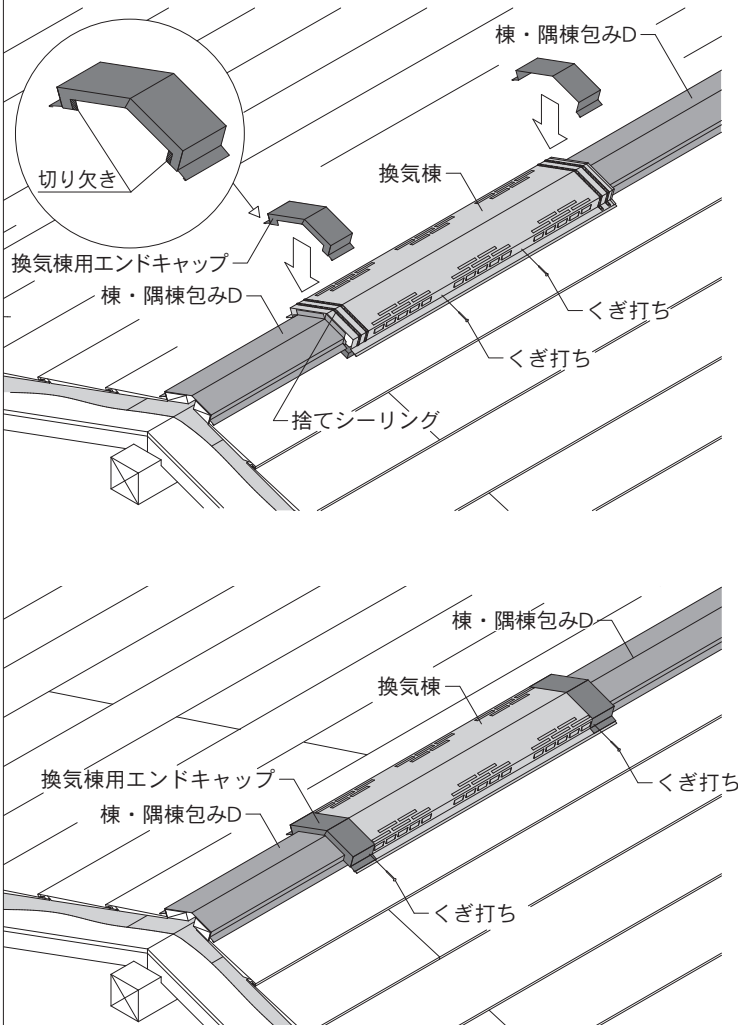
- 換気棟用下地に換気棟をかぶせて取り付けてください。

7. 連続施工時の加工方法



○換気棟を2本以上つなぐ場合は、左図のように捨てシーリングを施工し重ねてください。

8. 換気棟用エンドキャップの施工



○換気棟用エンドキャップの取り付けの際は、左図の部分を勾配に合わせて切り欠いてください。

事故防止のため

取り扱い時のお願い

アイシールドーフを美しく保つために

アイシールドーフ適用地域一覧

施工に必要な工具と材料

本体規格

部材規格

認定関係

施工の手順

下地の確認

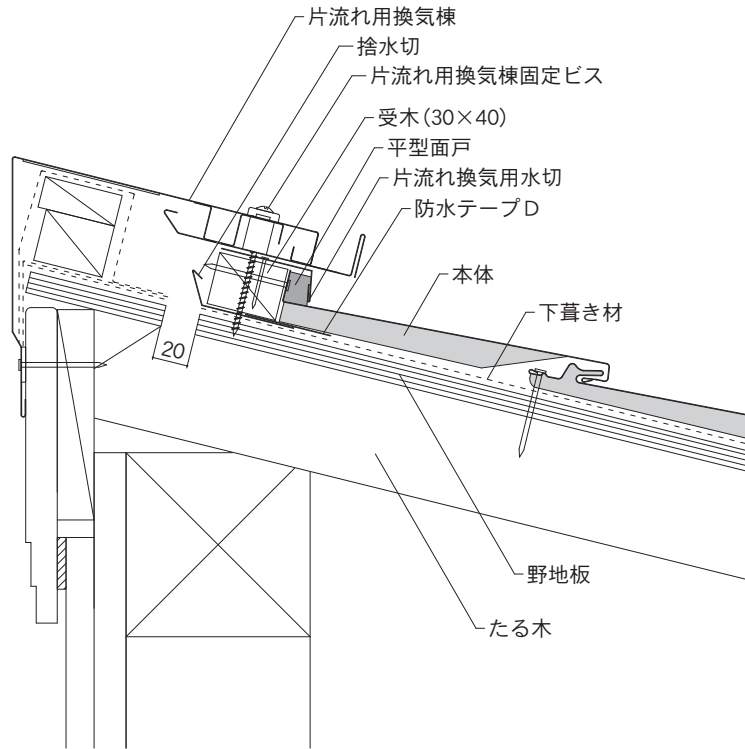
本体の施工とポイント

各部の納まり

積算方法

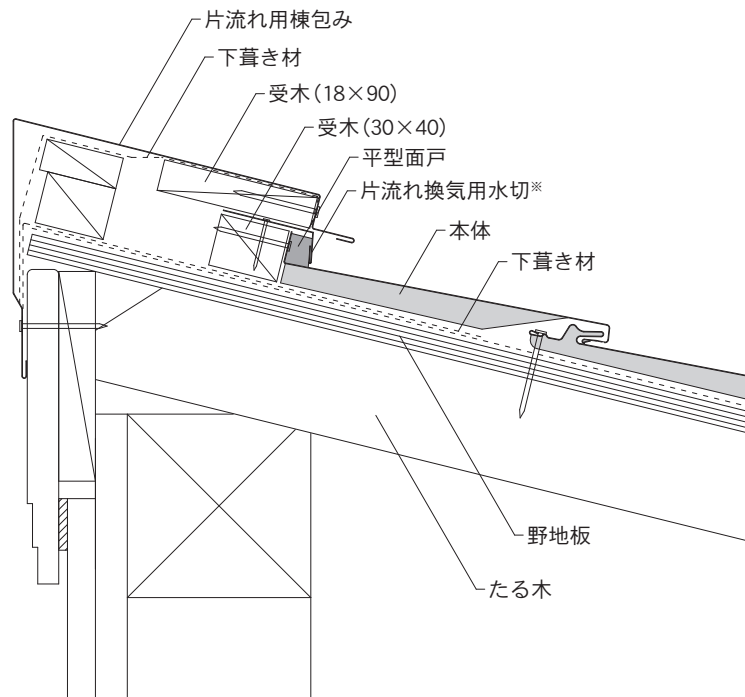
○換気棟の納まり② 〈片流れ用換気棟・片流れ用棟包み・片流れ換気用水切〉

納まり図



○片流れ用換気棟1セットには、片流れ換気用棟本体のほかに、片流れ換気用水切（1本）、捨水切（1本）、固定ビス（6本）が同梱されています。

〈片流れ用棟包み〉片流れ換気棟とつなぐ場合

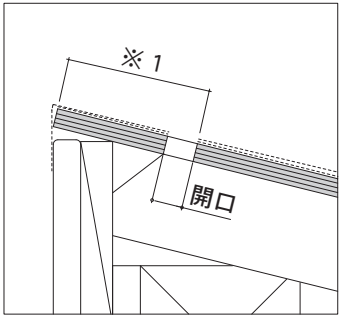


○片流れ用棟包みは、片流れ用換気棟とつなぐため、片流れ換気用水切と併用して施工してください。
※片流れ用棟包みには、片流れ換気用水切が同梱されておりませんので注意してください。

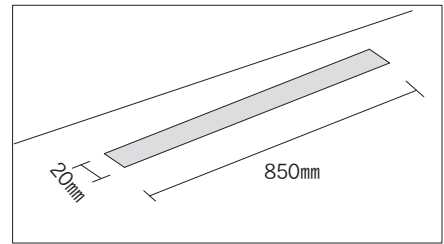
施工手順 〈屋根表面だけでなく小屋裏の構造も考慮に入れて取付位置を決めてください〉

1. 開口をあける

開口位置を決めます。(下図参照)

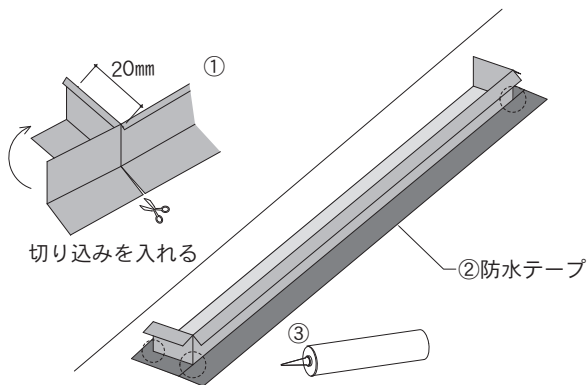


〈※1〉の勾配による寸法対応表			
2.5 寸	99mm	4.5 寸	86mm
3 寸	95mm	5 寸	82mm
3.5 寸	93mm	5.5 寸	79mm
4 寸	89mm	6 寸	76mm



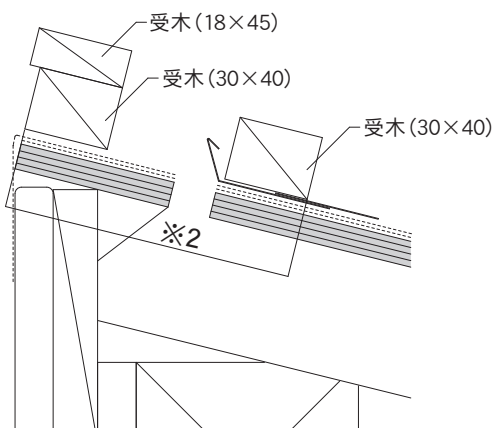
〇決めた位置に上記の寸法で開口を開けます。開口後、下葺き材を張ります。連続で施工する場合は、P45を参照してください。

2. 捨水切の施工



- ①捨水切は開口より両端20mm余幅をとっておきます。
- ②折り曲げ加工をして開口の三方を囲みくぎで留め付け、捨水切加工部とルーフィングとの境界部に防水テープを貼ってください。(図参照)
- ③ピンホールなどにはシーリング材を施工してください。

3. 受木の取り付け



受木を施工します。(図参照)
※2の寸法は寸法対応表を確認してください。

〈※2〉の勾配による寸法対応表			
2.5 寸	143mm	4.5 寸	130mm
3 寸	139mm	5 寸	126mm
3.5 寸	137mm	5.5 寸	123mm
4 寸	133mm	6 寸	120mm

事故防止のため

取り扱い時のお願い

アイジールーフを美しく保つために

アイジールーフ適用地域一覧

施工に必要な工具と材料

本体規格

部材規格

認定関係

施工の手順

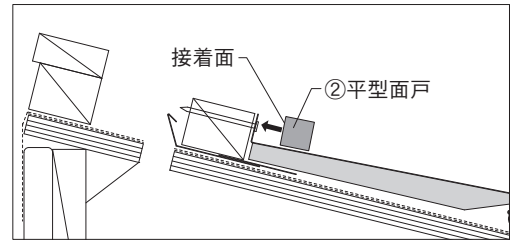
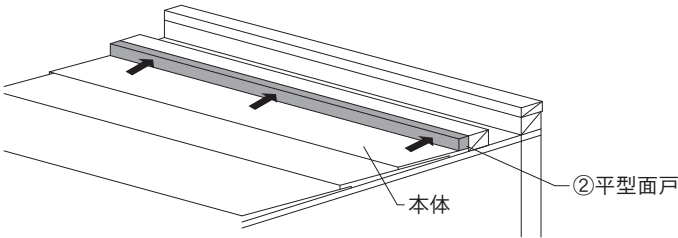
下地の確認

本体の施工とポイント

各部の納まり

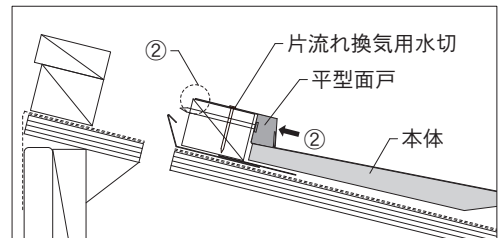
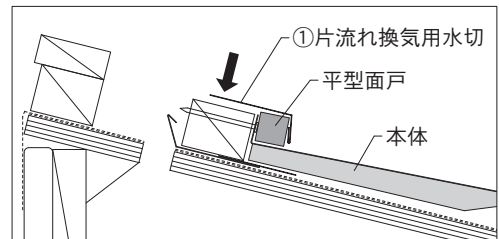
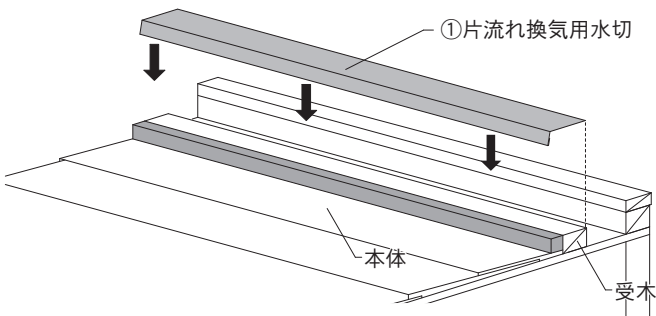
積算方法

4. 本体の施工と先端加工



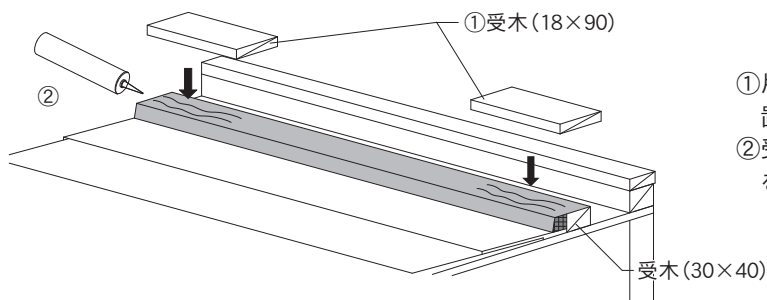
- ① 3で施工した受木まで本体を葺き、先端部分は立ち上げておきます。
- ② 立ち上げた本体の側面に平型面戸を貼り付けます。

5. 片流れ換気用水切の施工



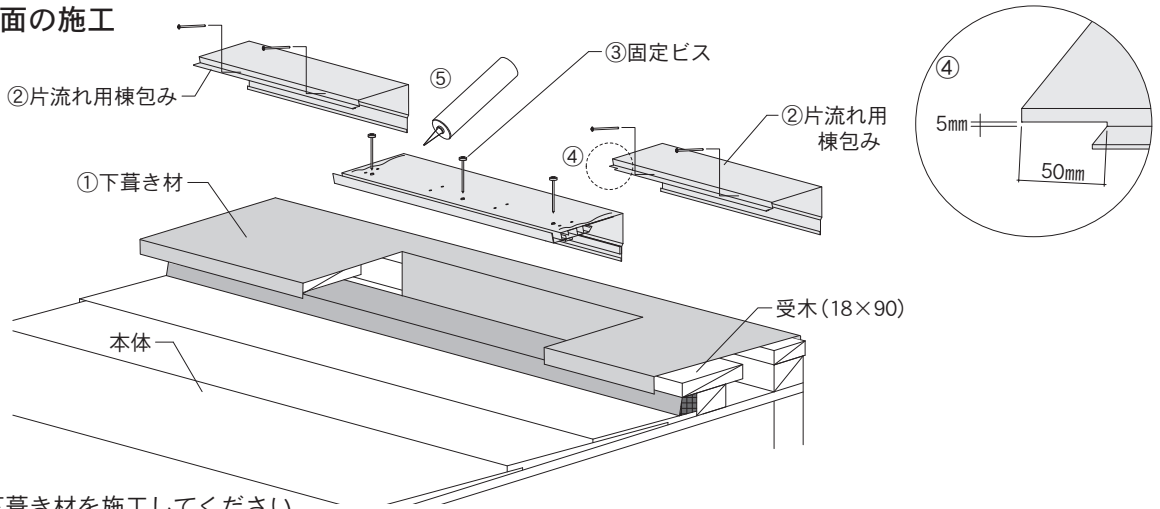
- ① 片流れ換気用水切を平型面戸と受木を覆うように施工します。
片流れ用換気棟と片流れ用棟包みをつなぐ場合は、片流れ換気用水切を必ず併用して、施工してください
- ② 平型面戸を圧縮し、受木の端部に片流れ換気用水切を合わせて留め付けてください。

6. 受木 (18×90) の施工



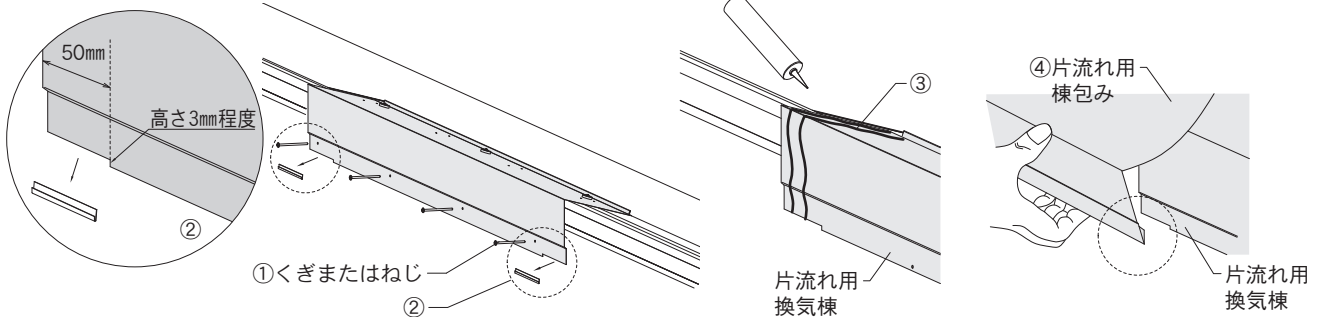
- ① 片流れ用棟包みを取り付ける場所に受木 (18×90) を置きます。
- ② 受木 (18×90) を置く場所にシーリング材で防水処理をしてください。

7. 片流れ用換気棟、片流れ用棟包みの取り付け
7-1. 屋根面の施工



- ①受木の上に下葺き材を施工してください。
- ②上図を参照して片流れ用換気棟と片流れ用棟包みを施工します。
- ③片流れ用換気棟は固定ビスで上部の下穴に留め付けてください。
- ④片流れ用換気棟の右側に片流れ用棟包みを施工する場合は、右上の図を参考に重なる部分をあらかじめカットしてください。
- ⑤接合重なり部分にはシーリング材で防水処理をしてください。

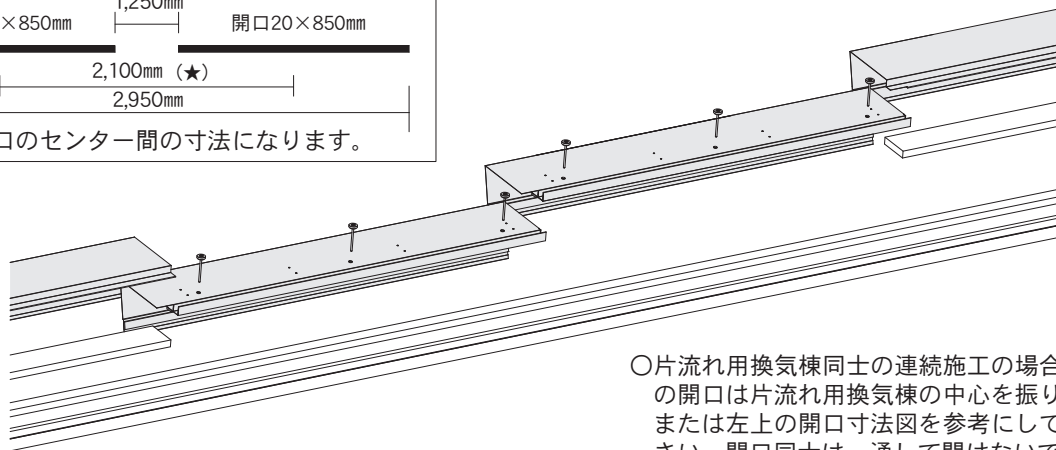
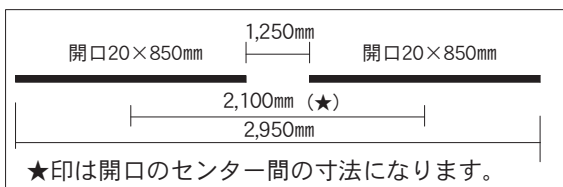
7-2. 壁面の施工



- ①壁面には、くぎまたはねじで留め付けてください。
- ②片流れ用換気棟の重ね代は、下から3mm、幅50mm程度切り欠いてください。
- ③片流れ用換気棟の重ね代は、図のように捨てシーリングを施してください。
- ④片流れ用棟包みの垂れの折返し部分を片流れ用換気棟切り欠き部分に引っ掛けて接合してください。

8. 連続施工時の開口間寸法

連続施工時のピッチ



○片流れ用換気棟同士の連続施工の場合は、野地板の開口は片流れ用換気棟の中心を振り分けるか、または左上の開口寸法図を参考にして開けてください。開口同士は、通して開けないでください。

事故防止のため
取り扱い時のお願い
アイジールーフを美しく保つために
アイジールーフ適用地域一覧
施工に必要な工具と材料
本体規格
部材規格
認定関係
施工の手順
下地の確認
本体の施工とポイント
各部の納まり
積算方法

○雪止めの納まり 〈雪止めGT (Ⅲ) ハネタイプ〉

○雪止めGT (Ⅲ) ハネタイプの取り付け基準

① 適用範囲

雪止めGT (Ⅲ) ハネタイプは、一般地域（最深積雪量の平均値がおおむね30cm以下の地域）で使用してください。すがもれのおそれがあります。

② 1段あたりが負担できる屋根の流れ長さ：L (m)

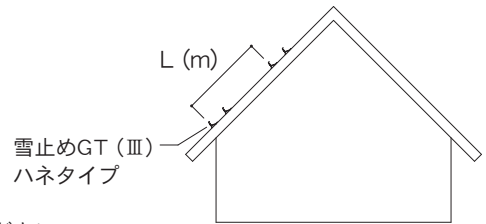
・積雪単位荷重：2 [kg/m²・cm]の場合

積雪量	勾配 (寸)						
	3.5寸	4寸	4.5寸	5寸	5.5寸	6寸	6.5寸
10cm	20m ^{※2}	19.0m	16.9m	15.3m	14.1m	13.1m	12.3m
20cm	10.9m	9.5m	8.5m	7.7m	7.0m	6.6m	6.2m
30cm	7.3m	6.3m	5.6m	5.1m	4.7m	4.4m	4.1m

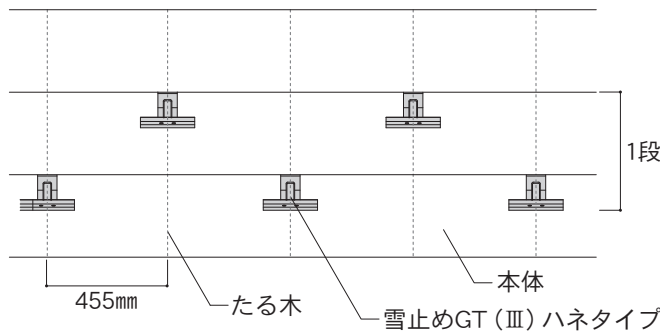
※1：3.5寸未満の勾配は、1段あたりが負担できる屋根の流れ長さを7mとしてください。

※2：この値は、流れ長さの制限に合わせています。（P1参照）

- ・対象となる物件（地域）の積雪単位荷重を確認して、上の表より雪止めGT (Ⅲ) ハネタイプの必要段数を求めてください。
必要段数＝屋根の流れ長さ÷1段あたりが負担できる屋根の流れ長さ
- ・屋根材の静止摩擦係数（μ）の値は0.05としています。
- ・上の表以外については、弊社にお問い合わせください。



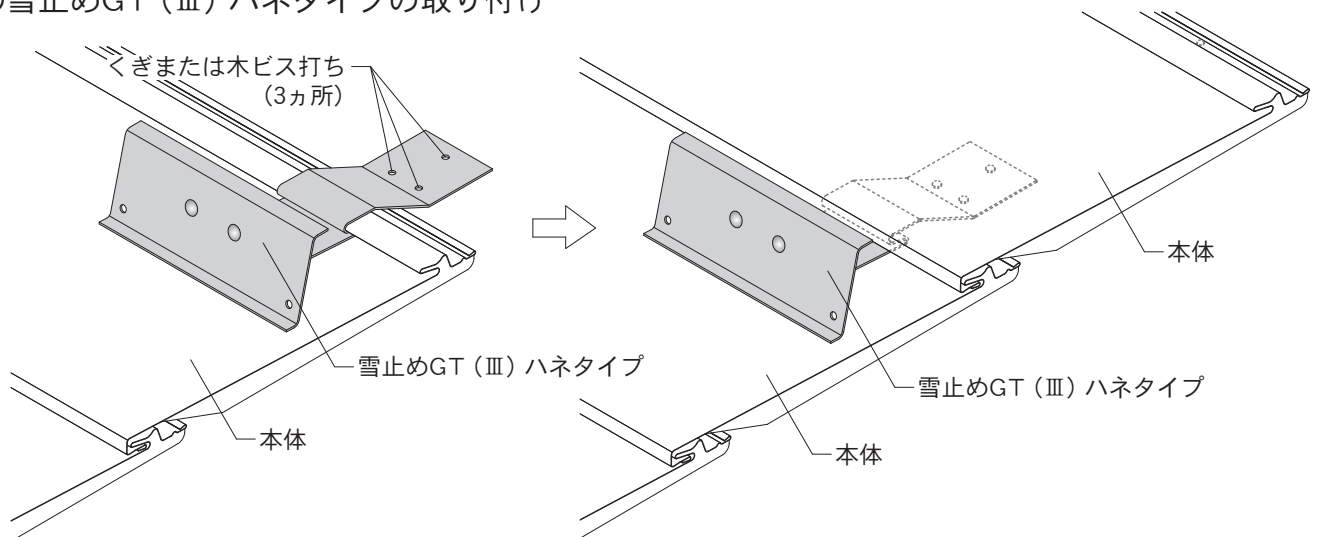
③ 1段あたりの雪止めGT (Ⅲ) ハネタイプの取り付け配置図



- ・1段とは千鳥に2列（455mm間隔）取り付けることを意味します。
- ・表より求めた、必要段数の雪止めGT (Ⅲ) ハネタイプを施工してください。
- ・雪止めGT (Ⅲ) ハネタイプを基準通りに取り付けても、気象条件などによっては、雪が落下することがあります。

⚠ 雪止めGT (Ⅲ) ハネタイプを足場にしたり、物を置いたりするなど、雪止め以外の用途には使用しないでください。破損し落下するおそれがあります。

○雪止めGT (Ⅲ) ハネタイプの取り付け



- ・雪止めGT (Ⅲ) ハネタイプをかん合部に合わせて、たる木にくぎまたは木ビスで取り付けてください。
- ・雪止めGT (Ⅲ) ハネタイプは先付けです。後付けはできません。